

令和
7
年度版

作文の友 6

～書くこと 大好き～

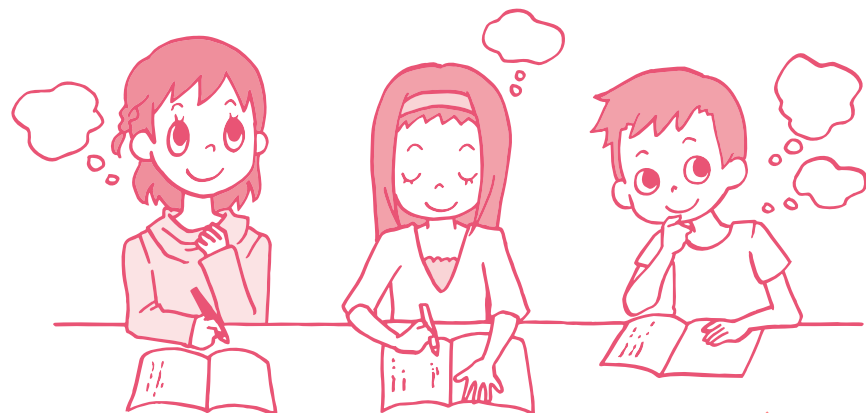


愛知教育文化振興会
三河教育研究会

6	年		組	名前	
---	---	--	---	----	--

表現をくふうして書こう(詩)

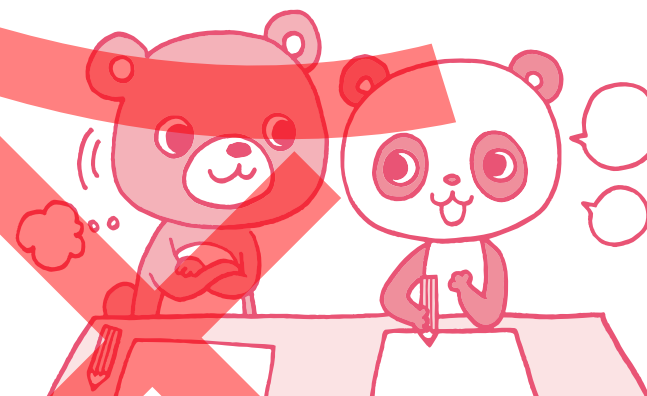
○いろいろな表現のくふうを知り、
表現の効果を考えて書きましょう



作文の友

～書くこと 大好き～

6



目次

1	表現をくふうして書こう(詩)……………2
2	いざというときのために……………9
3	六年生の本だな……………15
4	心の動きを俳句で表そう……………22
5	発信しよう、私たちのSDGs……………27

・いろいろな表現のくふうを知り、表現の効果を考えて書きましょう

・論の進め方をくふうして書きましょう

・読書感想文を書きましょう

・表現をくふうして俳句を作りましょう

・相手や目的に応じて情報を発信しましょう

詩とは

作者の思いや感動を短い言葉で表現したものです。表現のくふうをすると、自分の感情を読む人の心に深く伝えることができます。

詩の題材(テーマ)は、身近な生活の中にちりばめられています。自分が感動した出来事や自分が成長した経験などをふり返ってみましょう。また、身近な人への思いを題材にするのもよいでしょう。



一 表現のくふうを学ぼう。

三つの詩を読んで、自分の思いを効果的に伝えるための表現のくふうを見つけましょう。

夏の味

豊田・大林小 水 野 知 夏

おじいちゃんのぶどう畑は
夏になるとたくさんぶどうが実る
おじいちゃんのぶどう畑は
夏のおいで

キラキラがやいている
そこは私にとって上だけパラダイス
なぜなら下は虫だけパラダイス
カエルにバツタ
私の苦手なものだらけ
虫好きの弟には上も下もパラダイス
両方楽しめる弟が少しうらやましい
おじいちゃんは毎日畑へ通う
山の中なのに毎日通う
どんなに暑くても寒くても雨の日も
一年間ほぼ毎日通う

おじいちゃんが
一年かけて育てたぶどう
そのぶどうは私と弟の口の中で
いっしゅんにして消える
あつという間に皮の山

あつという間に
一つぶもないふさの山
おじいちゃんの苦労を
私と弟はひと口ずつ消していく
何だかちよっと申しわけない
でもおじいちゃんはうれしそう
夢中で食べる私たちを
にこにこ見ている

おじいちゃんの畑のぶどうが
ほとんど収穫されるころ
夏休みも終わりとふと気付く
ぶどう畑のぶどうといっしょに
夏が少しずつ消えていた

おじいちゃんのぶどうは
私にとって夏の味

あまくてときどきすっぱい夏の味

おじいちゃんのぶどう

来年も再来年もまたその来年も
私はずっとずっと食べ続けたい

『みかわの子』第55号

〈連〉

内容のまとまりや感動のまとまり
を表す。

〈体言止め〉

文の終わりを名詞で止めること。
読み手の想像をふくらませることが
できる。

（――部）

一年かけて育てたぶどう（夏の味）

あまくてときどきすっぱい夏の味
（夏の味）

ボロボロの六年生

豊田・梅坪小 林 卓 磨

ぼくのランドセルは ボロボロ
いすもこわれている
机もよごれている

一年生の妹は 何もかもきれいだ
ランドセルは ピカピカ
いすもこわれていない
机もとてもきれいだ

ぼくには 一年生から今までの
たくさん知識や知恵がある
やっではいけないこと
物を大切にすること
仲間を思いやる気持ち
いろいろなことを 今までたくさんの人に
教えてもらった

ぼくは以前
ある六年生に あこがれていた
その六年生のランドセルは
ボロボロだったけど
とてもかっこよく見えた
たのしく ほこらしく見えた

〈対句〉

対になるような言葉を並べて強調すること。

（――部）

ぼくのランドセルは ボロボロ
いすもこわれている
机もよごれている

一年生の妹は 何もかもきれいだ

ランドセルは ピカピカ
いすもこわれていない
机もとてもきれいだ

（ボロボロの六年生）

〈擬音語〉

動物の声や物体の音を表した言葉。

ピヨピヨ ワンワン ガラガラ ザーザー

〈擬態語〉

事物の状態や身ぶりなどの感じをいかにもそれらしく表
した言葉。

こっそり つるつる しんと ぎらぎら

その六年生は優しかった
けがをしたときは
「だいじょうぶ」と走り寄ってくれた
ぼくに歩調を合わせたり
重たい荷物を 持ってくれたりした
ぼくも そんな六年生になりたいと
ずっと思ってきた

どうきんは新しい物より
古い方が使いやすい
ボロボロでも いいこともある

友達の間でもまれ
先生にしぼられ
ぼくも少しづつ 少しづつ
ボロボロになってきた

でもその分
強くたくましくなってきた
あの六年生に ほんの少し
近づけたような気がする

ボロボロは
ぼくが六年間がんばってきた証
妹に負けないぐらい
ピカピカの気持ちをもちながら
もっと ボロボロになっていきたい
ガンバレ！
ボロボロの六年生

（『みかわの子』第50号）



〈くり返し〉
伝えたいことを強く表現するために、同じ言葉をくり返すこと。

ボロボロは
ぼくが六年間がんばってきた証
妹に負けないぐらい
ピカピカの気持ちをもちながら
もっと ボロボロになっていきたい
ガンバレ！
ボロボロの六年生

（ボロボロの六年生）

〈比喩〉
様子や動きをほかのものにたとえること。

おこっている人の顔はふん火直前の山のような



詩の表現技法

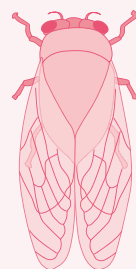
せみ

地下の暗い穴の中
息をひそめて
まるでねむっているように
じっと待つ
やがて来る そのときまで
静かに 静かに

豊川・代田小 榎本寛大

さあ もういいだろう
長い時を経て この暗い穴から出るときが
ついに来た
一歩一歩 しんちように
上をめざして ひたすらに登るんだ
高く 高く

照りつける太陽の力を借りて
精いっぱい鳴きさけぶ
伝えるんだ
ぼくが確かにここにしていることを
強く 強く



（豊川市文詩集『えんびつ』第55号）

※「キラキラ」「ボロボロ」「ピカピカ」の擬態語および
「ガンバレ」は、本来ひらがなで表記するが、作者が
意図的にカタカナで表記する場合もある。

〈擬人法〉
人以外のものが、人がしているように表現すること。

一歩一歩 しんちように
上をめざして ひたすらに登るんだ

（せみ）部

〈倒置法〉
意味を強めたり、リズムをよくしたりするために、主語と述語を入れかえること。

伝えるんだ
ぼくが確かにここにしていることを

（せみ）

(1) あなたが気に入った作品はどれですか。

(2) どんなどころが気に入りましたか。

(3) くふうされている表現を見つけましょう。

表現のくふう		言葉
(例)	体言止め	あつという間に皮の山(夏の味)

二 詩を書こう。

- (1) 何について書くか、題材(テーマ)を決めましょう。
(自分の心に残った出来事や身近な人のことを書き出してみましょう。)

(2) 連想メモに書き出して、自分がいちばん伝えたいことを考えてみましょう。

(3) いちばん伝えたいことを書きましょう。

(4) 35～6ページの「表現のくふう」や作品を参考にし
て、原稿用紙に詩を書いてみましょう。
原稿用紙は後ろの33～36ページにあります。切り取って使いましょう。

三 書いた詩を読み合おう。

自分の思いが相手に伝わっているでしょうか。書いた詩を友達と交換して読み合い、感想を書いてもらいましょう。

()
より)

()
より)

()
より)

比喩	擬音語	連
☐	☐	☐
擬人法	擬態語	体言止め
☐	☐	☐
倒置法	くり返し	対句
☐	☐	☐

「表現のくふう」を使って、詩を書くことができましたか。使うことができた表現に印をつけましょう。

四 ふり返りをしよう。

表現をくふうして、自分の思いが伝わるように詩を書くことができましたか。◎、○、△、×の四段階で評価し、下の□に書き込みましょう。

《◎…よくできた ○…できた △…もう少し ×…うまくいかなかった》

いざというときのために

○論の進め方をくふうして書きましょう

私たちの身の回りでは、日々さまざまな自然災害が起こります。読み手に分かりやすく伝えるには、論の進め方や資料の活用方法のくふうが大切です。防災への取り組みについて考え、提案書をまとめましょう。

一 題材を決めて調べよう。

(1) 提案の例を参考に、調べて分かったことを書こう。

提案の例

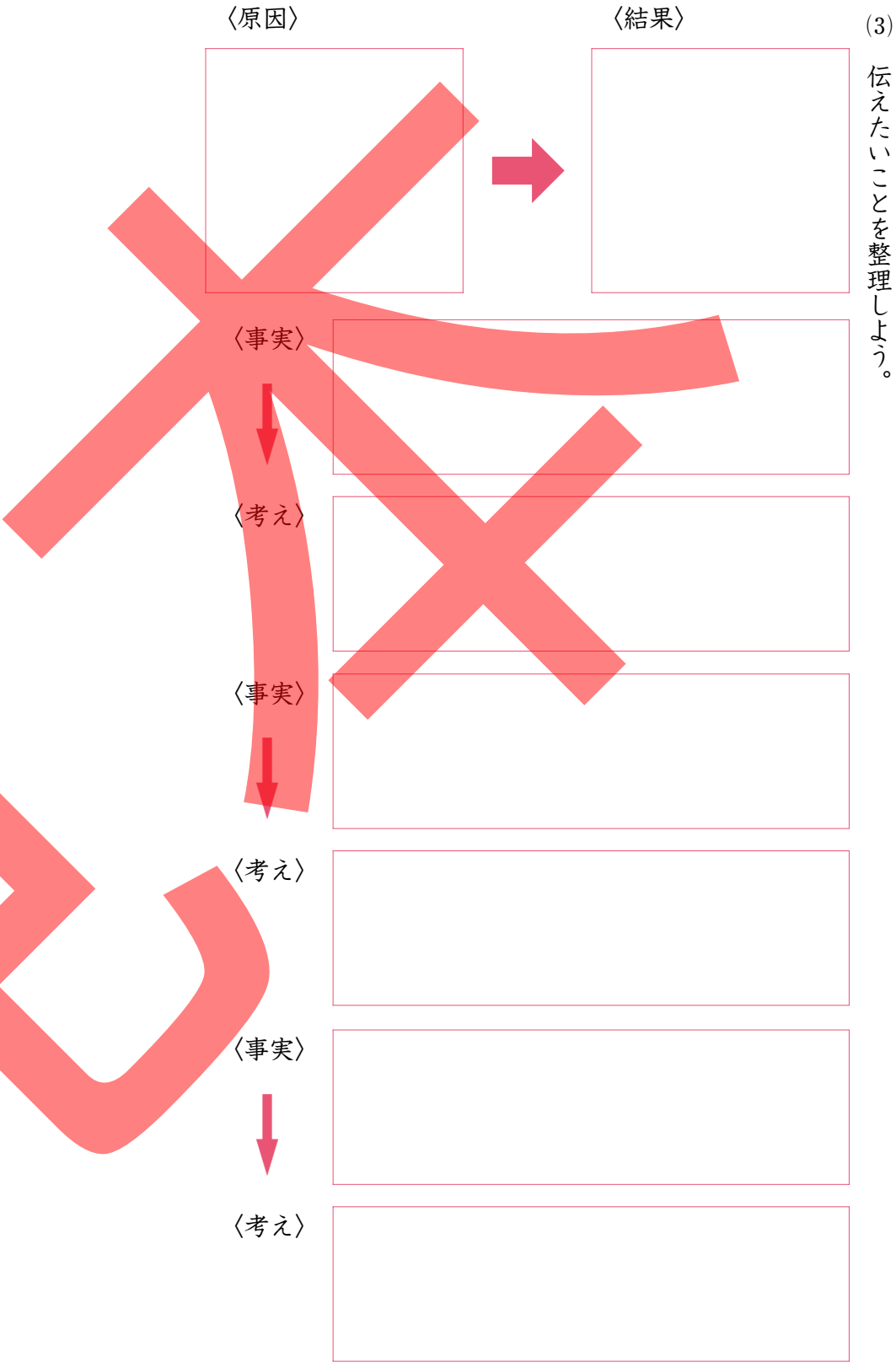
- ・災害から身を守るために必要なこと
- ・最新の防災グッズはこれだ
- ・非常食など備蓄の大切さ
- ・避難所への誘導のために

メモ

【本やインターネットで調べて分かったこと】

始め	〈導入〉
中	〈 〉
	〈 〉
	〈伝えたいこと〉
終わり	〈提案・まとめ〉

二 論の進め方をくふうしよう。
提案を分かりやすく伝えるための論の進め方、資料の活用の方を考えよう。

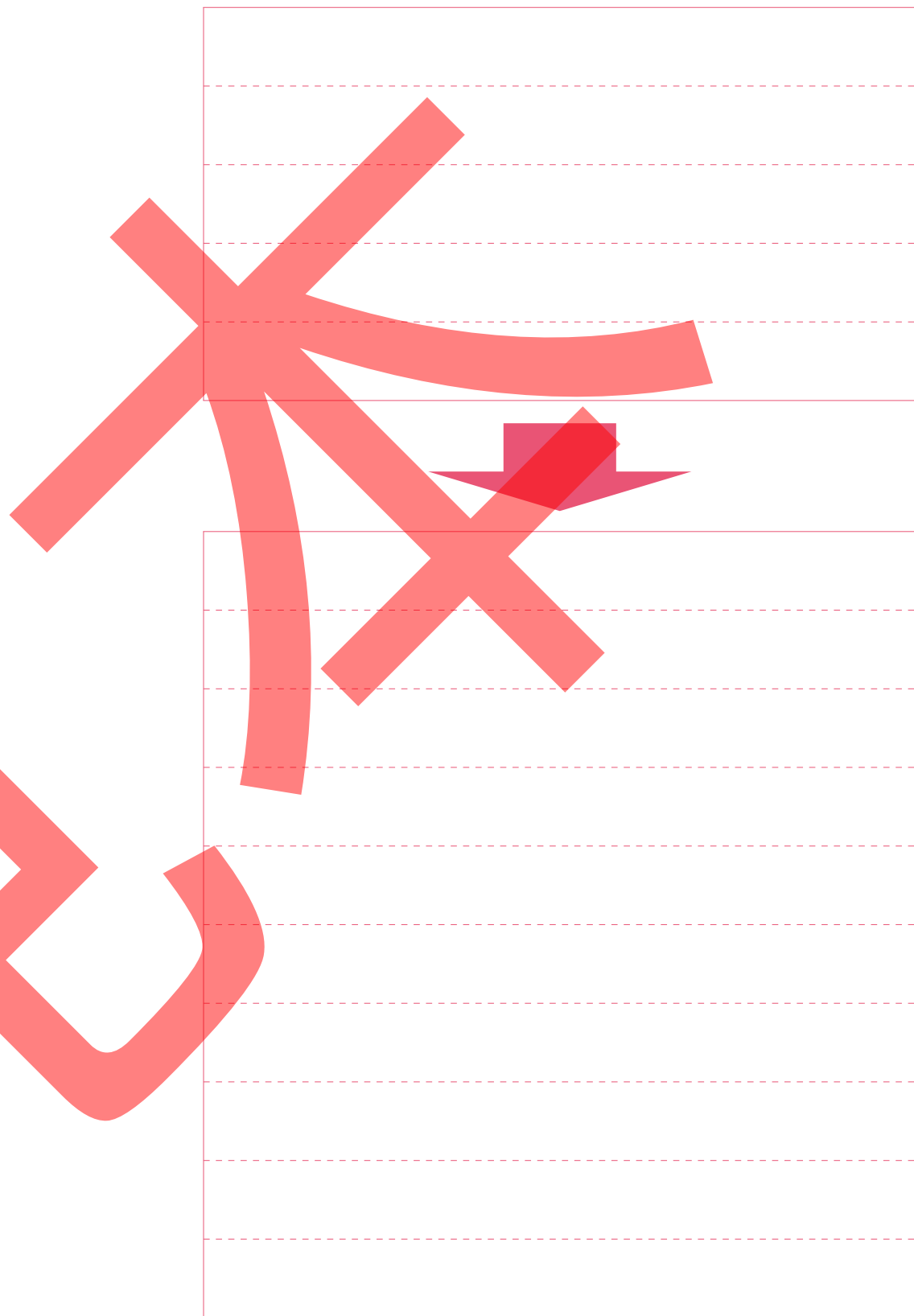


(2) 提案することを決めよう。

三 提案書を完成させよう。

- (1) 読み手に分かりやすく伝わるように、自分の伝えたいことを書きましょう。
- (2) 文章が書けたら、適切な情報を追加してあるか、また説得力のある文章になっているか、文章を推敲こうしましょう。

- (2) 文章が書いたら、適切な情報を追加してあるか、また説得力のある文章になっているか、文章を推敲こうしましょう。



- (3) 資料の配置や見せ方を考えて、提案書を完成させましょう。用紙は後ろの37〜38ページにあります。

四 完成した提案書を読み合おう。

完成した提案書を友達と読み合い、感想を書いてもらいましょう。

五 振り返りをしよう。

論の進め方をどのようにしながら提案書を作りましたか。

六年生の本だな

○読書感想文を書きましょう



今までに、どんな本を読みましたか。楽しく読んだ本、なみだを流しながら読んだ本、思わず笑ってしまった本、自分をふり返って考えることができた本もあるでしょう。

そんな本を、自分の心の中にしまいこむのではなく、友達やうちの人も、多くの人にも、ぜひ教えてあげましょう。

いちばん書きたいことをはっきりさせよう

何を書いたらいいかわからない、という人もいます。その本を読んだときに、いちばん最初に感じた気持ちを大切にしましょう。

感動が伝わるように書こう

自分がどこに感動したのか、どうして感動したのかを相手（読み手）に伝えるように書くためにはどうしたらよいでしょう。中心人物や登場人物の生き方や考え方に対する思いや疑問を書いたり、「自分にも同じことがあったな。」という経験を書いたりすることが大切です。

次の作品を参考にして、みなさんも感想文にちょう戦してみてください。

一 感想文から学ぼう。

瑞希さんの感想文を読みながら、感想文を書くときのポイントを見つけましょう。

心の強さとは

安城・錦町小 小野 瑞希

①「どんなに逆風が強くても、自分が『これだ』と信じる意見を言い続けなければならないチャンスが来るものなんですよ。」

② これは、日本初の世界遺産となった屋久島の森を守った兵頭さんの言葉です。なぜ兵頭さんは、国の意見に逆らってまで屋久杉の森を守るのか、この本を読み始めた時には不思議でした。圧倒的に強い立場の国に対して、一人で屋久杉のばっ採を反対したからです。私は、自分の意見を人に伝えるのが苦手だから余計に兵頭さんの行動に興味をもちました。

③ しかし、本を読み進めていくうちに少し自分の考えが変わってきました。大多数の人たちが国の意見に従っている中で、自然を守るために十年もかけてばっ採を止め、屋久島を世界遺産へと導くことができたのは、とても勇気があることだと思いました。さらに、

始め ①②

○ **書き出しをくふうしてみよう。**

作者は、本の内容の紹介や興味をもった点から書き出しています。

みなさんも読み手を引きつける効果的な書き出しを考えましょう。

- ・本を読むきっかけになったことから
- ・感動の中心から（感動の理由、自分のこれまでの考えと比べるなど）
- ・登場人物や筆者へのよびかけから
- ・自分の経験から
- ・本の内容の紹介（自分が気に入った文のぬき出し）から

中 ③⑥

○ **内容を具体的に書こう。**

兵頭さんの行動について紹介し、自分の

兵頭さんは屋久杉の森のばっ採を反対する時に、ただ反対するだけでなく、しっかりと自分の意見を伝えていました。

④ 私は、話し合いの場で人の意見に流されてしまうことがあり、自分の意見を伝えようか迷うときがあります。先日、卒業アルバムに使う写真をとる場所を五から六人の班で決めました。自分がとりたかった場所を主張することができず、友達の考えに流されて決定してしまいました。しっかりと意見を言いたいという気持ちはあっても、それを言うのと反対されないか、自分勝手だと思われないか、などと考えてしまい、自分の意見を言えませんでした。決まった場所がいやなわけではないけれど、自分の意見をきちんと班の子に伝えることができなかったことを後かいています。もし兵頭さんが私の立場だったら、きっと自分の意見を言い、自分のとりたかった場所を主張して、その上でみんなと相談して決めていくのだろうと思います。

⑤ 兵頭さんが意見を主張できたのは、大人だからではなく、心の強さをもっているからだと思います。私にはまだない心の強さをもっている兵頭さんを私はとてもすごいなと思いました。この心の強さをもつには勇気と自信がいることがこの本を読んで分かりました。

⑥ この本の題名である「もうひとつの屋久島から」の「もうひとつ」とは、世界遺産としてきやっ光を浴びている屋久島ではなく、たった数人で始まったばっ採の反対運動によって、きせき的に守られた屋久

姿をふり返って考えたことをまとめています。 (3) (4) 段落

「なぜ兵頭さんは、国の意見に逆らってまで屋久杉の森を守るのか」という自分の疑問に対する答えを本文や題名から考え、「心の強さ」というキーワードを使ってまとめています。 (5) (6) 段落

次のようなことに気をつけて書いてみましょう。

・あらすじをまとめて書くのではなく、自分の考えにつながるエピソードを選んで書く。

・登場人物の行動や言葉を引用し、自分の考えとかかわらせながら書く。

・事実（本に書かれていること）と自分の感想・意見を区別して書く。

終わり ⑦

○ 本から学んだことをくふうしてまとめよう。

作者は、兵頭さんの姿から学んだことを、今後の自分の生活に生かす決意や、兵頭さんへの思いを最後に書いてしめくくっています。

本から学んだことに対する自分の考えや思いをしっかり主張し、読み手の心に残るような終わり方のくふうを考えましょう。

（安城の子どもの読書感想文集『貝がら』第53号）

武田剛 『もうひとつの屋久島から』世界遺産の森が伝えたいこと』フレーベル館

感想文を書くために

① もう一度作品をていねいに読み返しながら、感じたことや自分の考え、気に入った部分などをメモしておく。

② 何を書くかを考え、中心を決める。

- ・ 作品のテーマへの思い
- ・ 生き方、考え方に対する思い
- ・ 疑問点、問題点
- ・ 自分の生活や社会とのかかわり
- ・ 同じような経験
- ・ 引用した部分について、自分が受け止めたことや感じたこと

③ どういう順序で書き進めるか、構想を立てる。

二 感想文を書く準備をしよう。

心に残った本を選び、次のことについてメモを取りながら、もう一度本を読み返してみよう。

書名

(1) この本を選んだわけ、この本を読もうと思ったきっかけ

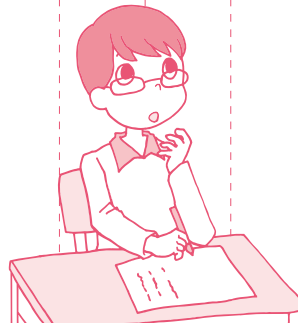
作者名

(2) あらすじや本のだいたいの内容



(3) 心に残った場面や言葉、初めて知ったこと

(4) 本を読んで、ものの見方や考え方が変わったこと



(5) 本から学んだことに対する自分の決意や思い

心の動きを 俳句で表そう

○表現をくふうして俳句を作しましょう

三 感想文を書こう。
どんな順序で書き進めるか、組み立てを考えてから、感想文を書きましょう。

○ 題名

「△△を読んで」という題名のほかにも、次のようにくふうしてみましょう。

・自分がいちばん考えさせられたことを短い言葉で
・本文中の心に残った言葉を選んで

○ 始め

書き出しのくふう（16ページ）を参考にして書きましょう。

○ 中

読み取りメモ（19～21ページ）を見て、伝えたい内容を整理しましょう。自分が経験したこと、見たこと、聞いたことや自分と登場人物を比べて考えたことも書いてみましょう。

○ 終わり

上の読み取りメモを見て、心に残る終わり方になるようにくふうしてみましょう。自分の決意や思い、夢などを書いてみましょう。



俳句は日本で古くから作られてきた五・七・五の十七音からなる短い詩です。季節感を表す「季語」を入れて作ります。

今までに、どんな俳句を読んだことがありますか。また、俳句を作ったことはありますか。季節を感じた出来事などを十七音のリズムで伝えてみましょう。

一 それぞれの俳句を読んで、思いうかんだ情景や、おもしろいと思ったところを友達と伝え合おう。

《児童の作品》

風ふいて 道路いちめん 桜色

〈季語…桜 季節…春〉

柴田 一希

電線に 音符を描く つばめたち

〈季語…つばめ 季節…夏〉

後藤 なつ美

赤とんぼ 野球のノック 見に来てる

〈季語…赤とんぼ 季節…秋〉

川上 翼

初もうで 人におされて 願い事

〈季語…初もうで 季節…冬〉

吉中 菜穂

二 材料を集めよう。

生活の中で気づいたこと、季節を感じた出来事から、俳句の材料を集めましょう。現在の季節から連想して、思い浮かぶ言葉や出来事を書き出してもよいでしょう。

季節を感じたときを思い出してみよう。

三 俳句を作ろう。

俳句には、季語と呼ばれる季節を表す言葉が入ります。季語を一つ入れて作ってみましょう。

そのときの発見や感動が読む人に伝わるように、表現をくふうしましょう。「きれいだな」「うれしいな」「楽しいな」といった気持ちを表す言葉を使わずに、自分が心ひかれたものを何かにたとえてみたり、ふさわしい言葉を探したりして表現してみよう。

五 七 五

※リズムがあれば、字数にこだわらなくてもよい。

(1) 季節の言葉を集めましょう。

(2) 三の(1)から、見えたもの、聞こえた音、ただよっていたかおり、ふれた感覚、口に広がった味などをよく思い出して、五・七・五で表してみよう。

四 俳句を仕上げよう。

同じ言葉でも、順序を入れかえたり、表現を少しかえたりすると、感じがちがってきます。

いつの間にみんな集まる日なたぼこ



日なたぼこみんな集まるいつの間に
日なたぼこいつの間にやらみな集う



くふうしてみよう

- ・言葉の順序を入れかえる
- ・様子をほかのものに例える
- ・情景を伝えるのにふさわしい言葉を探す
- ・直接気持ちを伝える表現をさける など

(1) 自分の作った俳句の言葉の順序を入れかえたり、表現を少しかえたりしてみよう。

--

五 七 五

--

五 七 五

--

五 七 五

(2) いちばん気に入ったものに○をつけましょう。

五 クラス句会を開こう。

作った俳句を持ち寄って、クラス句会を開きましょう。

クラス句会の進め方

- 1 作った俳句を一人一句ずつ紙に書いて提出する。
作者名は書かない。
- 2 集めた紙に番号をつけてはり出す。
- 3 はり出された句の中から、よいと思う句を一人三句ずつ選ぶ。
- 4 投票用紙に、選んだ句の番号を書いて提出する。
- 5 投票用紙を集計して、結果を発表する。
- 6 自分の選んだ句や、自分の句と感じ方や表現が似ている句などについて、感想や意見を話し合う。

- (1) よいと思った俳句を三句選び、下の投票用紙に番号を書きましょう。また、その俳句の感想を書きましょう。

- (2) 自分の句と感じ方や表現が似ている句を書きましょう。

- (3) (2)で選んだ句について、どのような点が似ているのか書きましょう。

- (4) ふり返りをしましょう。

表現をくふうして俳句を作り、感想を伝え合うことができましたか。◎、○、△、×の四段階で評価し、左の

□に書き込みましょう。

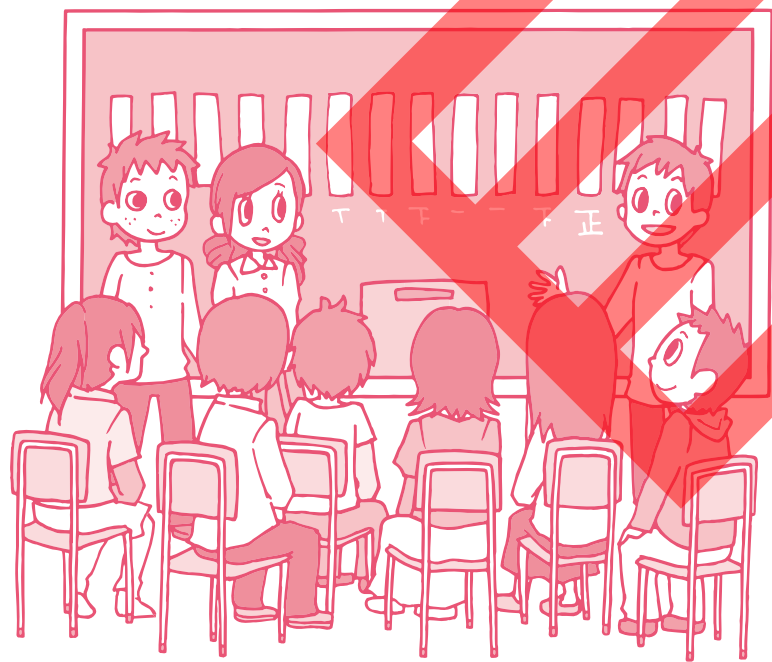
《◎…よくできた ○…できた △…もう少し ×…うまくいかなかった》

投票用紙 名前()

俳句を選ぶときのポイント

- 一 季語（季節を表す言葉）が入っているか。
- 二 五・七・五などの、リズムがいいか。
- 三 表現のしかたがすぐれているか。
(たとえば、言葉の順序の入れかえ、音、情景など)

番号	感想(選んだ理由や気に入ったところを書こう)



発信しよう、 私たちのSDGs

エスディーゼーズ

○相手や目的に応じて情報を発信しましょう

SDGs（持続可能な開発目標）は、世界中の人々が豊かに暮らせるようになるために、二〇一五年に国連で採択された十七の目標です。未来のために、今、私たちが考えるべきことは何かを発信しましょう。

一 テーマを決めて情報を集めよう。

どのようなテーマについて、だれに発信するのか、グループで話し合いましょう。

テーマ

対応しているSDGsの番号（1～17）

発信する相手

二 パンフレットの構成を考えよう。

テーマについてさらに情報を集め、どのような記事を書くのか、どのようなパンフレットの構成にするのかなどを決めるために、グループで編集会議を開きましょう。

メモ

グループのパンフレットの構成

(4)	(3)	(2)	(1)
()	()	()	()
さん	さん	さん	さん

三 情報を集めよう。

構成が決まったら、自分が担当することについて、さらに情報を調べましょう。

情報を集めるときには、情報の信頼性と著作権に気を付けましょう。

情報①	
出典	
情報②	
出典	

情報③	
出典	
情報④	
出典	
情報⑤	
出典	

四 情報を効果的に活用しよう。

キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報をどのように結び付けて示すと効果的か考えましょう。

(1) 教科書173ページを参考にして、キャッチコピーを考えたり、使う表やグラフを選んだりしましょう。

キャッチコピー

○読み手をひきつける短い表現のことで、ポスター全体の題名の役割も果たします。

・目立つところに配置しましょう。

表やグラフ

・どの資料から提示すると効果的であるかを考えて、資料の順番を決めましょう。

・読み手がどのように記事を読み進めていくかを考えて、配置しましょう。

(2) キャッチコピーを考えましょう。

(3) 29ページで集めた情報の中から、テーマについて効果的に呼びかけるために必要な資料を選び、しぼりこみましょう。

選んだ情報

メモ

五 パンフレットを書こう。

キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報を使って文章を書きましょう。
用紙は後ろの39〜40ページにあります。

六 完成したパンフレットを、読み合おう。

完成したパンフレットを友達と読み合ったり、ほかのグループと交換して感想を書いてもらいましょう。

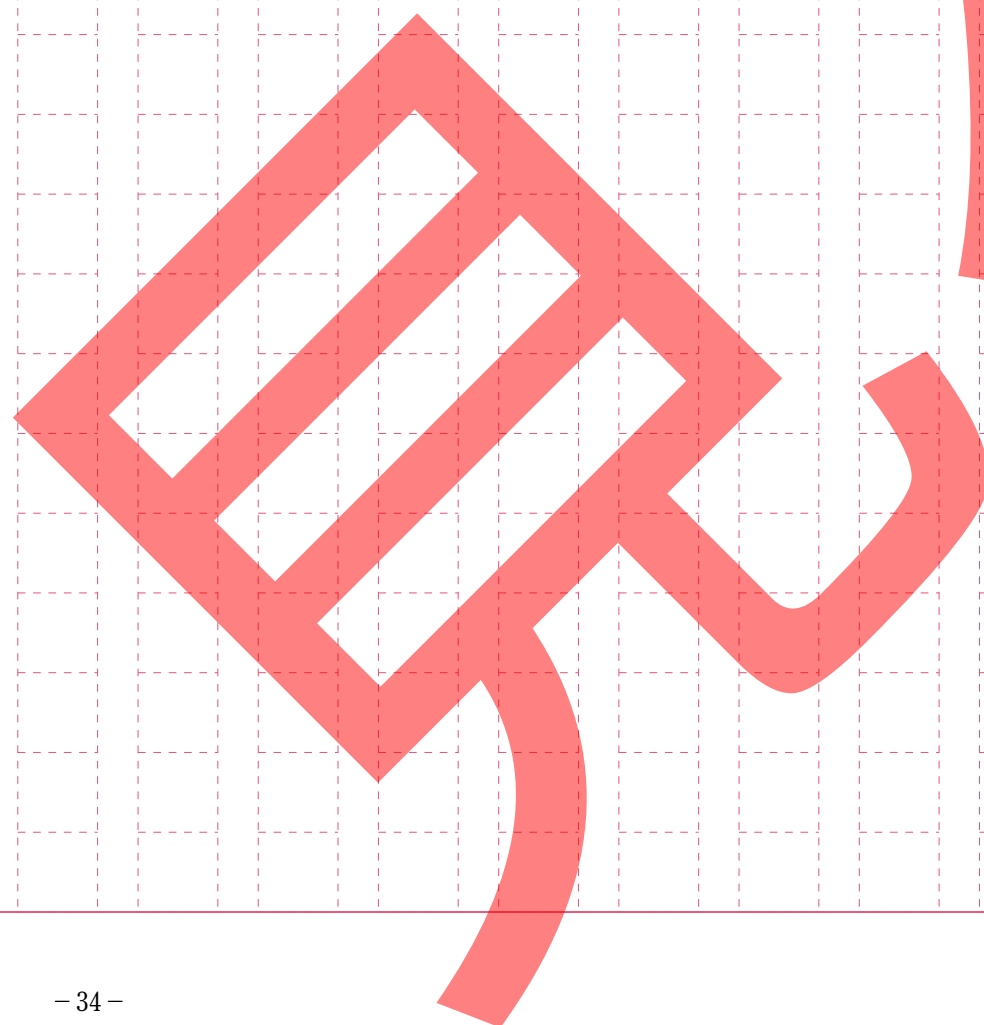
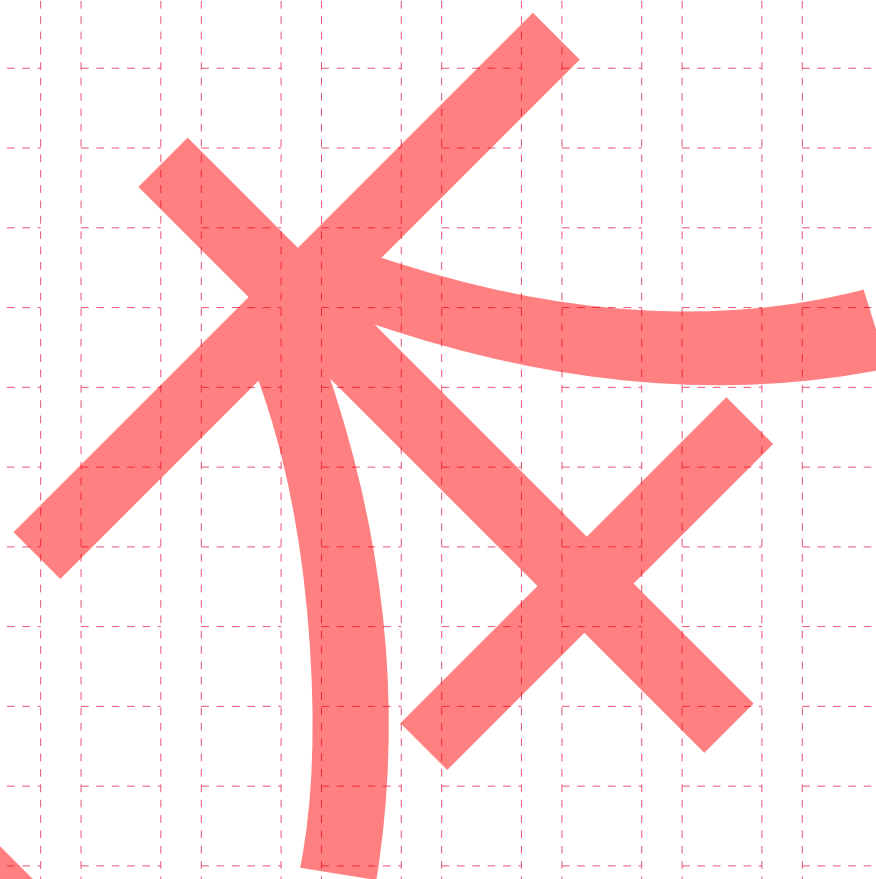
(
より)

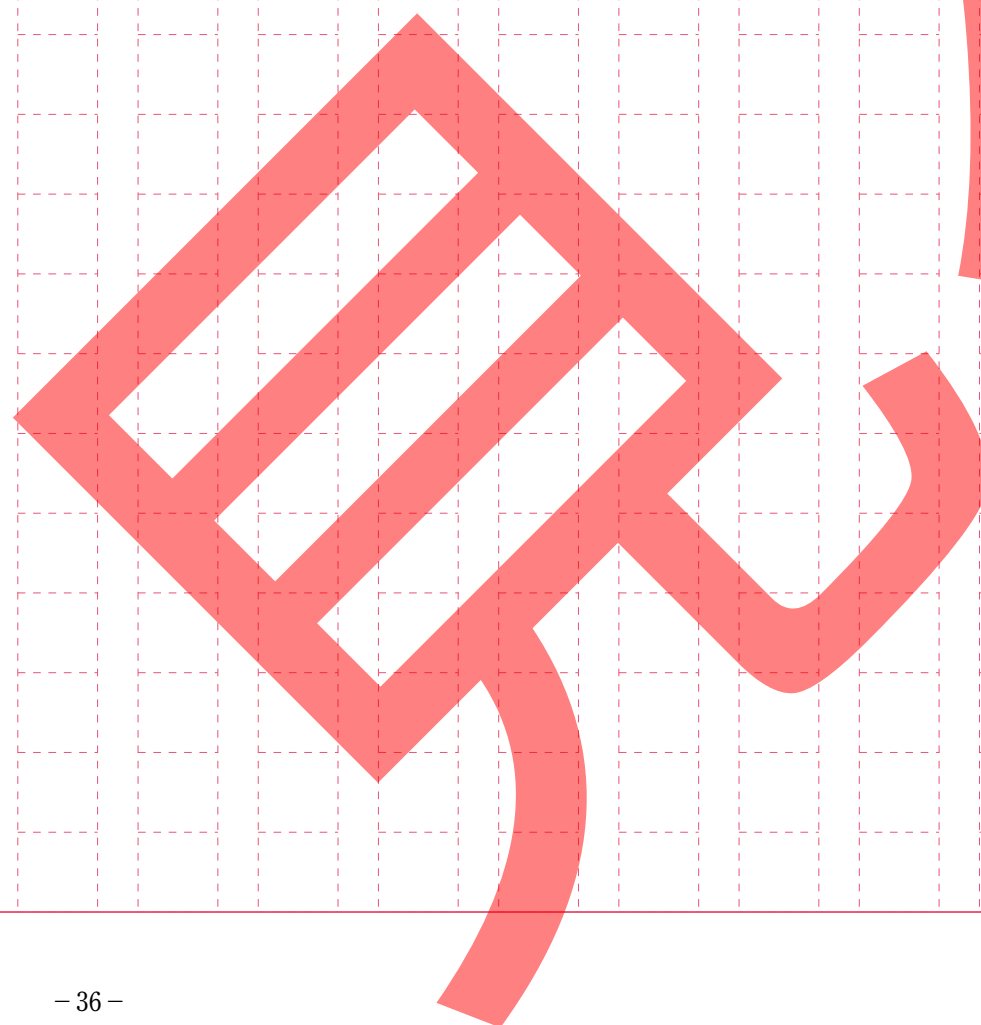
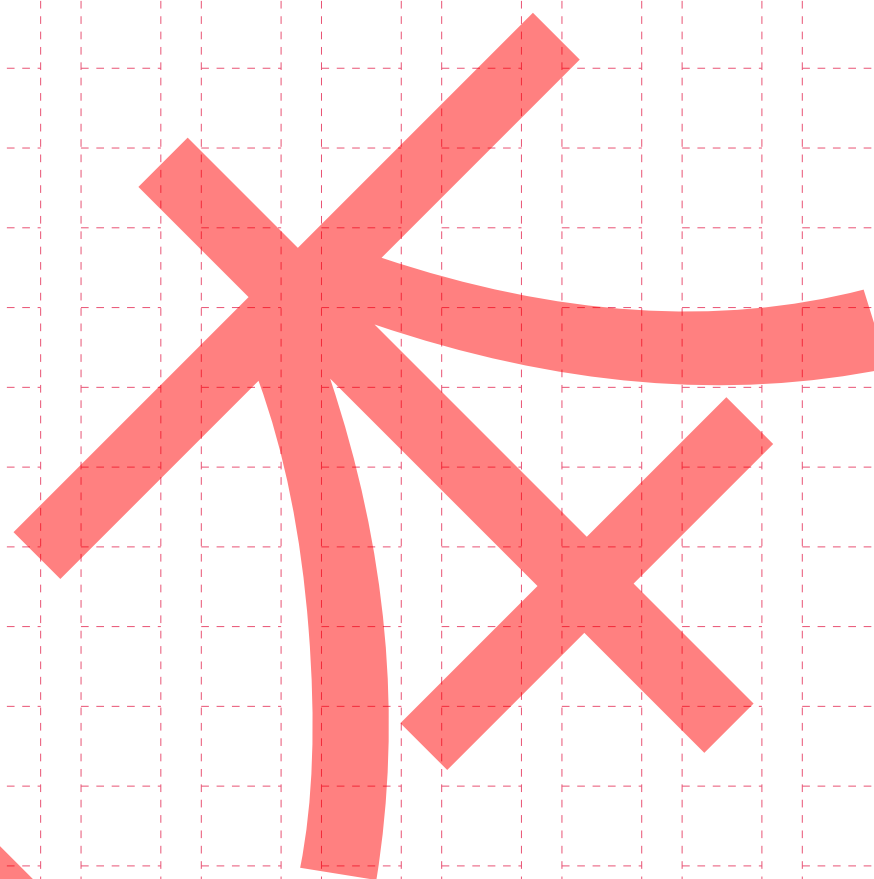
(
より)

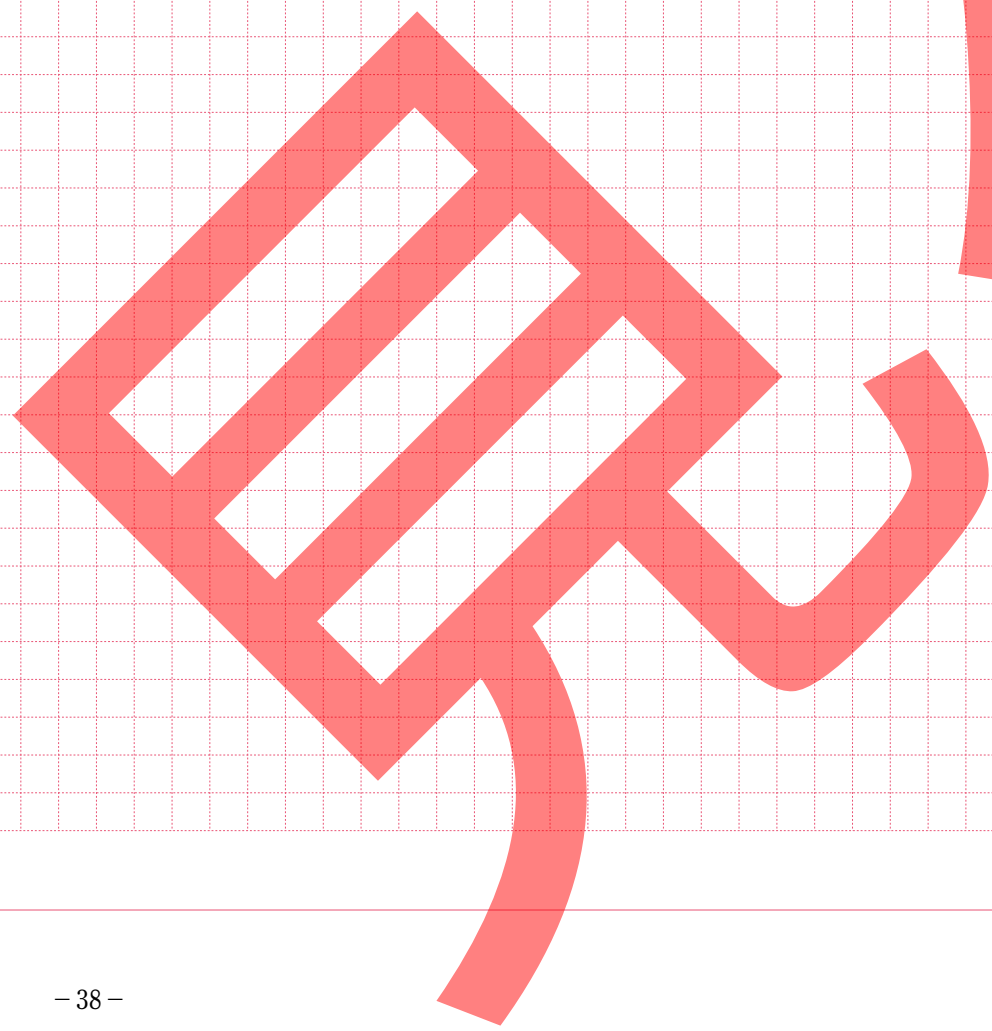
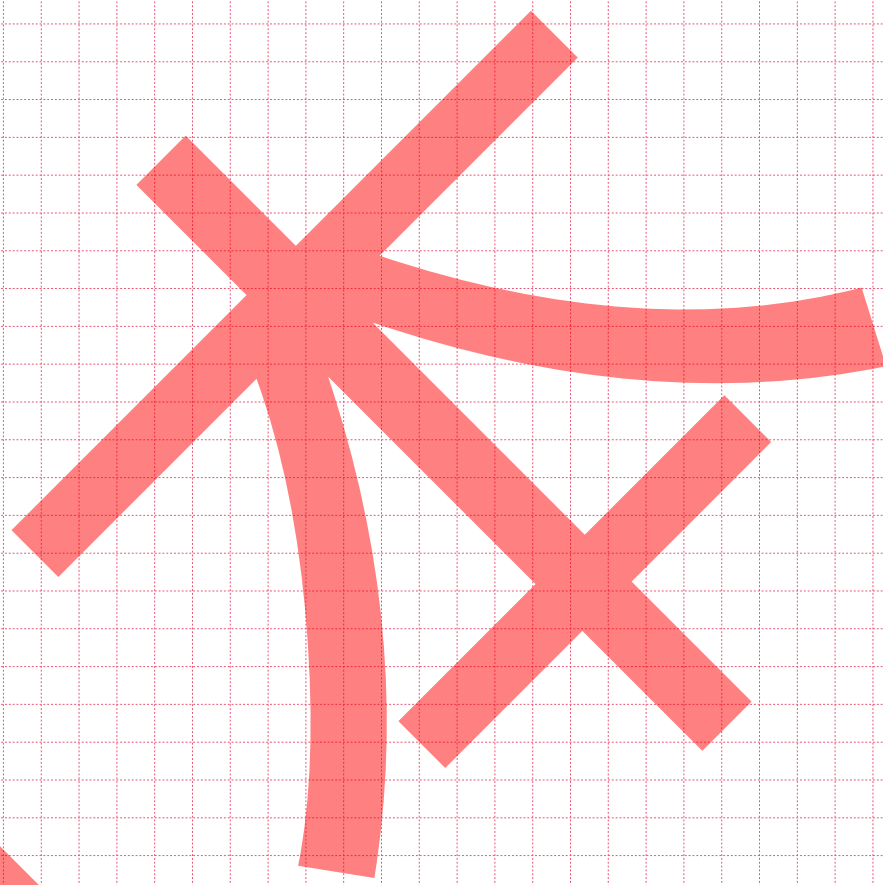
(
より)

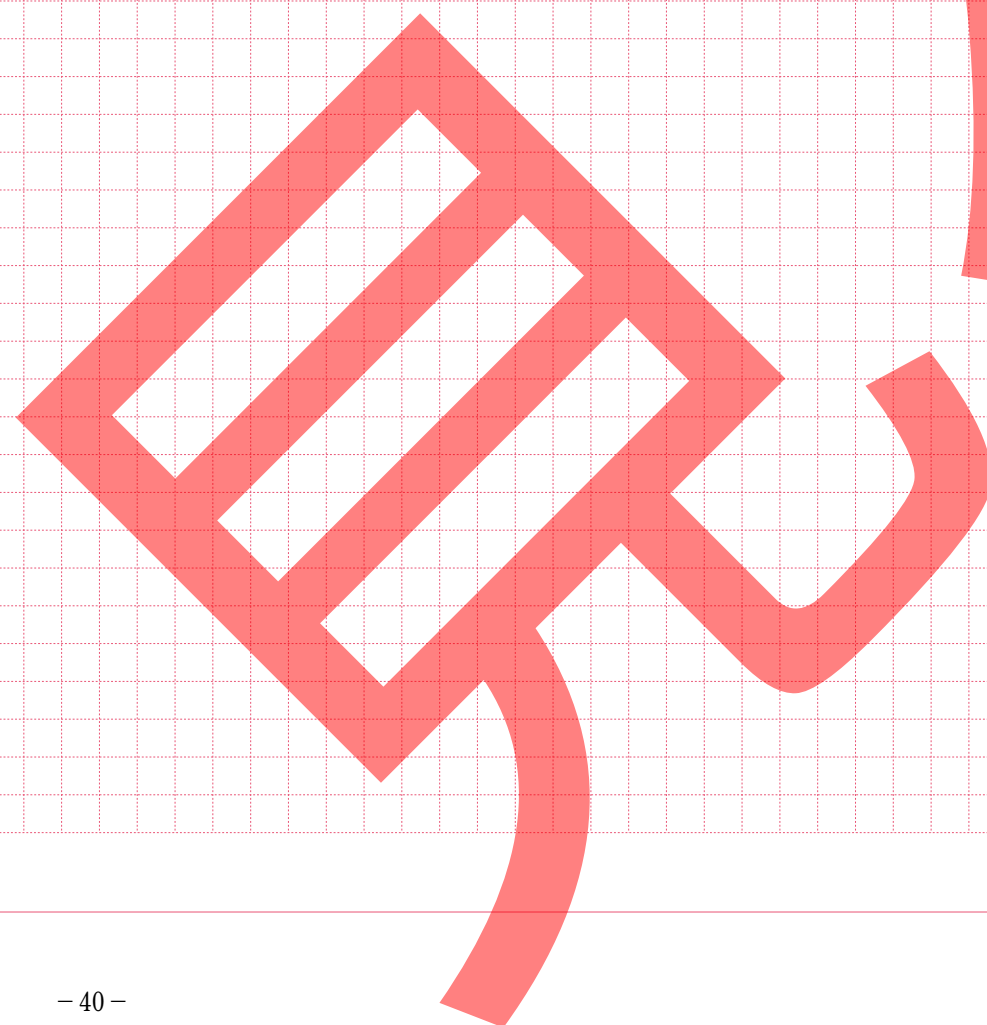
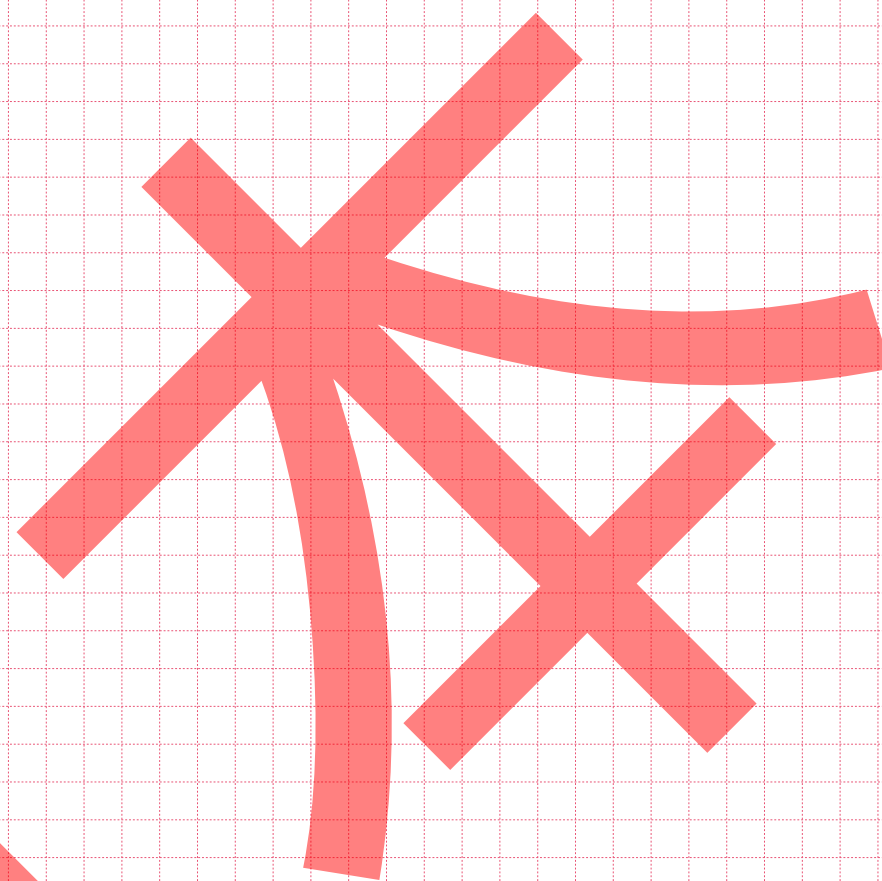
七 ふり返りをしよう。

さまざまな情報を発信するとき、どのようなことに気をつけましたか。書いてみましょう。









令和
7
年度版

作文の友 6

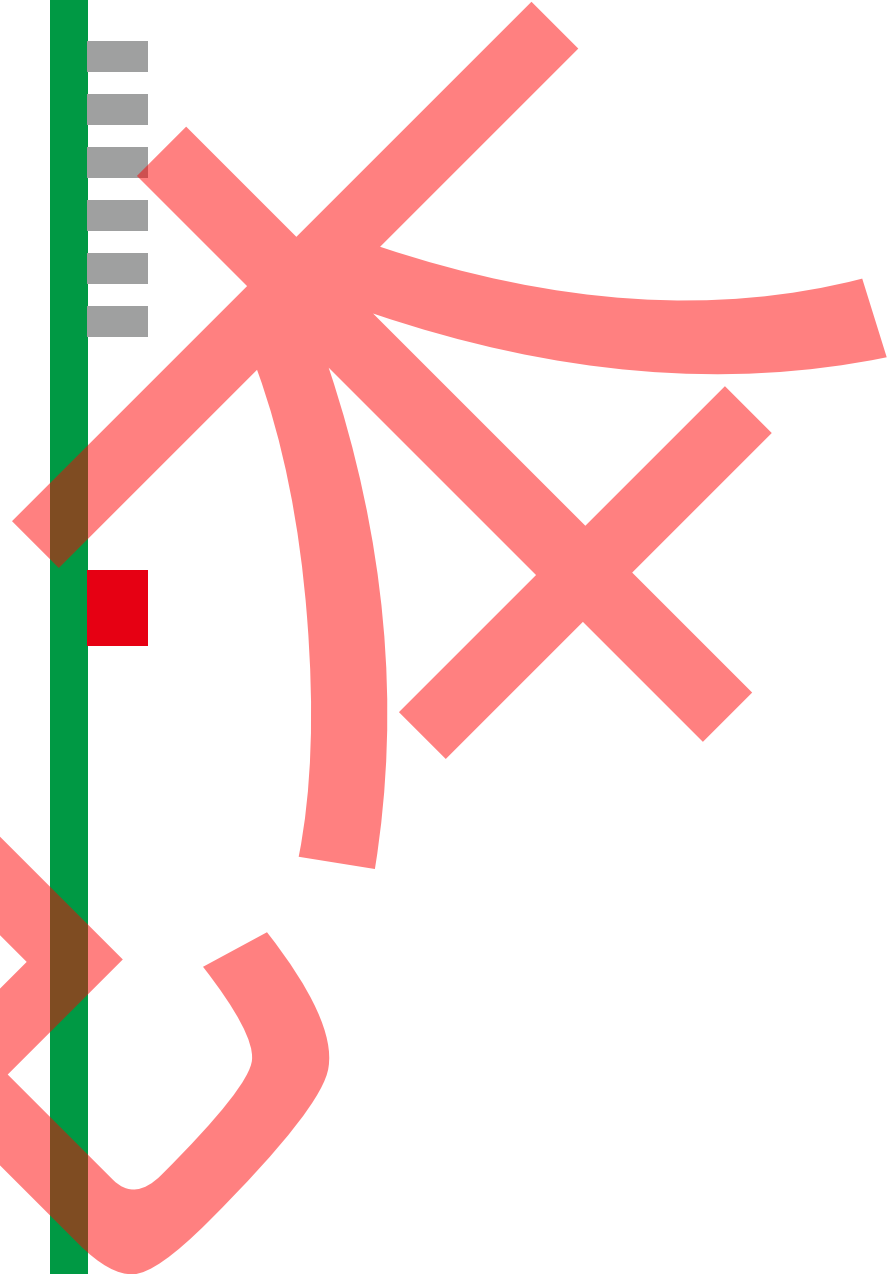
～書くこと 大好き～

教

指導展開例あり



愛知教育文化振興会
三河教育研究会



6	年		組	名前	
---	---	--	---	----	--



原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

「ただし
は一マスあけない

話しことは・会話は
行をかえる

話しことば・会話の
二行目は一マス下げる

会話文の次の行か
新しく文が始まる
きは一マス下げる

話の内容が変わるときも一マス下げる

一マスあける

さいごの一マスあける

いちばん下の「、」「。」はマスの中に入れる

。とは
同じマスに
書く

— 書き直すときの記号

{	つけくわえる
[	書きかえる
	とる
└	行をかえる

先生と保護者の皆様へ

- ・教科書との関連を図っています。
 - ・児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - ・参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

令和7年度版 作文の友 6年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会

〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1

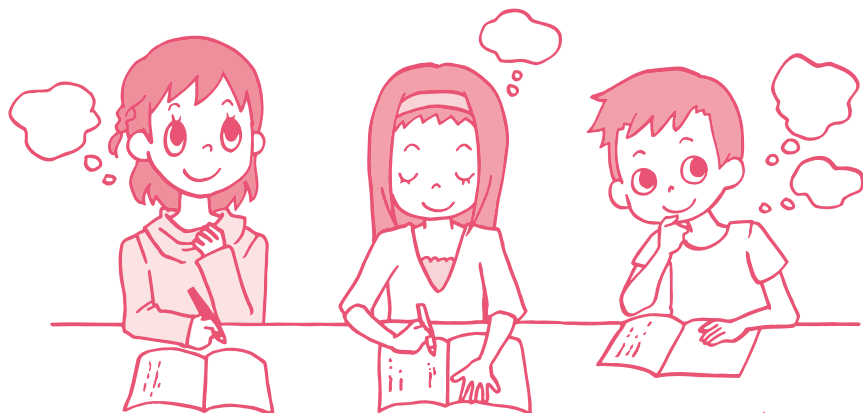
電話 0564-51-4819

印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

表現をくふうして書こう(詩)

○いろいろな表現のくふうを知り、
表現の効果を考えて書きましょう



○目標
○関連

詩の書き方を学び、自分の思いや感動を読む人に分かりやすく表現することができる。

詩とは

作者の思いや感動を短い言葉で表現したものです。表現のくふうをすると、自分の感情を読む人の心に深く伝えることができます。

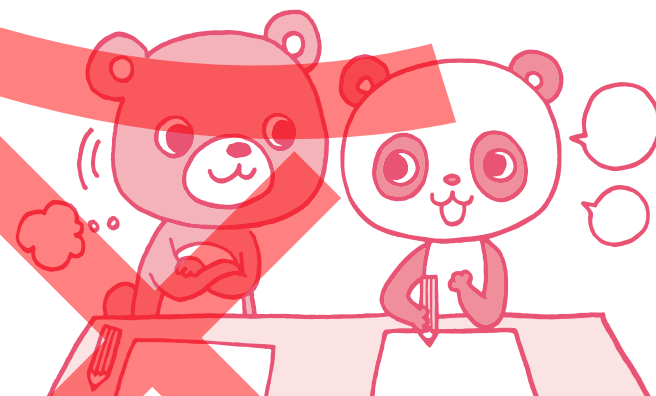
詩の題材(テーマ)は、身近な生活の中にちりばめられています。自分が感動した出来事や自分が成長した経験などをふり返ってみましょう。また、身近な人への思いを題材にするのもよいでしょう。



作文の友

～書くこと 大好き～

6



目次

〈教科書との関連〉

1 表現をくふうして書こう(詩)……………2

・いろいろな表現のくふうを知り、表現の効果を考えて書きましょう

「詩を読もう」

2 いざというときのために……………9

・論の進め方をくふうして書きましょう

「いざというときのために」

3 六年生の本だな……………15

・読書感想文を書きましょう

「六年生の本だな」

4 心の動きを俳句で表そう……………22

・表現をくふうして俳句を作りましょう

「心の動きを俳句で表そう」

5 発信しよう、私たちのSDGs……………27

エスディー・ジーズ

・相手や目的に応じて情報を発信しましょう

「発信しよう、私たちのSDGs」

指導展開例あり

一 表現のくふうを学ぼう。
三つの詩を読んで、自分の思いを効果的に伝えるための表現のくふうを見つけましょう。

夏の味

豊田・大林小 水 野 知 夏

おじいちゃんのぶどう畑は
夏になるとたくさんぶどうが実る
おじいちゃんのぶどう畑は

擬態語

比喩

夏において
キラキラがやいている
そこは私にとって上だけ
なぜなら下は虫だけ
カエルにバツタ
私の苦手なものだらけ
虫好きの弟には上も下も
両方楽しめる弟が少しうらやましい

くり返し
体言止め

おじいちゃんは毎日畑へ通う
山の中なのに毎日通う
どんなに暑くても寒くても雨の日も
一年間ほぼ毎日通う

おじいちゃんが
一年かけて育てたぶどう
そのぶどうは私と弟の口の中で
いっしゅんにして消える
あつという間に皮の山

比喩

あつという間に

比喩

一つぶもないふさの山
おじいちゃんの苦勞を
私と弟はひと口ずつ消していく
何だかちよっと申しわけない
でもおじいちゃんはうれしそう
夢中で食べる私たちを
にこにこ見ている

おじいちゃんの畑のぶどうが
ほとんど収穫されるころ
夏休みも終わりとふと気付く
ぶどう畑のぶどうといっしょに
夏が少しずつ消えていた

比喩

おじいちゃんのぶどうは
私にとって夏の味
あまくてときどきすっぱい夏の味

体言止め

おじいちゃんのぶどう

来年も再来年もまたその来年も
私はずっとずっと食べ続けたい

『みかわの子』第55号

《連》

内容のまとまりや感動のまとまり
を表す。

《体言止め》

文の終わりを名詞で止めること。
読み手の想像をふくらませることが
できる。

（――部）

一年かけて育てたぶどう（夏の味）

あまくてときどきすっぱい夏の味
（夏の味）

ボロボロの六年生

豊田・梅坪小 林 卓 磨

ぼくのランドセルは ボロボロ
いすもこわれていない
机もよごれている

対句

一年生の妹は 何もかもきれいだ
ランドセルは ピカピカ
いすもこわれていない
机もとてもきれいだ

ぼくには 一年生から今までの
たくさん知識や知恵がある
やっではいけないこと
物を大切にすること
仲間を思いやる気持ち
いろいろなことを 今までたくさんの人に
教えてもらった

ぼくは以前
ある六年生に あこがれていた
その六年生のランドセルは
ボロボロだったけど
とてもかっこよく見えた
たのしく ほこらしく見えた

《対句》

対になるような言葉を並べて強調すること。

（――部）

ぼくのランドセルは ボロボロ
いすもこわれていない
机もよごれている

一年生の妹は 何もかもきれいだ

ランドセルは ピカピカ
いすもこわれていない
机もとてもきれいだ

（ボロボロの六年生）

《擬音語》

動物の声や物体の音を表した言葉。

ピヨピヨ ワンワン ガラガラ ザーザー

《擬態語》

事物の状態や身ぶりなどの感じをいかにもそれらしく表
した言葉。

こっそり つるつる しんと ぎらぎら

その六年生は優しかった
けがをしたときは
「だいじょうぶ」と走り寄ってくれた
ぼくに歩調を合わせたり
重たい荷物を 持ってくれたりした
ぼくも そんな六年生になりたいと
ずっと思ってきた

どうさんは新しい物より
古い方が使いやすい
ボロボロでも いいこともある

友達の間でもまれ
先生にしぼられ
ぼくも少しずつ
ボロボロになってきた

でもその分
強くたくましくなってきた
あの六年生に ほんの少し
近づけたような気がする

ボロボロは
ぼくが六年間がんばってきた証
妹に負けないぐらい
ピカピカの気持ちをもちながら
もっと ぼろぼろになっていきたい
ガンバレ！

ボロボロの六年生
(『みかわの子』第50号)



〈くり返し〉
伝えたいことを強く表現するために、同じ言葉をくり返すこと。

ボロボロは
ぼくが六年間がんばってきた証
妹に負けないぐらい
ピカピカの気持ちをもちながら
もっと ぼろぼろになっていきたい
ガンバレ！

(ボロボロの六年生)

〈比喩〉
様子や動きをほかのものにたとえること。

おこっている人の顔はふん火直前の山のような



詩の表現技法

せみ

豊川・代田小 榎本寛大

地下の暗い穴の中
息をひそめて

まるでねむっているように
じっと待つ
やがて来る そのときまで

静かに 静かに

さあ もういいだろう
長い時を経て この暗い穴から出るときが
ついに来た

擬人法

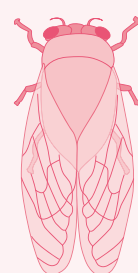
上をめざして ひたすらに登るんだ

照りつける太陽の力を借りて
精いっぱい鳴きさけぶ
伝えるんだ

倒置法

ぼくが確かにここにいることを

強く 強く



(豊川市文詩集『えんびつ』第55号)

※「キラキラ」「ボロボロ」「ピカピカ」の擬態語および
「ガンバレ」は、本来ひらがなで表記するが、作者が
意図的にカタカナで表記する場合もある。

〈擬人法〉
人以外のものが、人がしているように表現すること。

一歩一歩 しんちように
上をめざして ひたすらに登るんだ

(せみ)

(部)

〈倒置法〉
意味を強めたり、リズムをよくしたりするために、主語と述語を入れかえること。

伝えるんだ
ぼくが確かにここにいることを

(部)

(せみ)

(1) あなたが気に入った作品はどれですか。

(例) せみ

(2) どのところが気に入りましたか。

短い詩だけれど、せみが一生けん命生きようとする
思いが伝わってくるところ。

(3) くふうされている表現を見つけましょう。

表現のくふう	言葉
(例) 体言止め	あつという間に皮の山 (夏の味)
くり返し	ぼくも少しずつ 少しずつ (ボロボロの六年生)
くり返し	静かに 静かに (せみ)
比ゆ	まるでねむっているように (せみ)

二 詩を書こう。

- (1) 何について書くか、題材(テーマ)を決めましょう。
(自分の心に残った出来事や身近な人のことを書き出してみましょう。)

部活動

(2) 連想メモに書き出して、自分がいちばん伝えたいことを考えてみましょう。

部活動

(3) いちばん伝えたいことを書きましょう。

勝ったときの喜び チームワークの大切さ
努力がむくわれる など

(4) 3〜6ページの「表現のくふう」や作品を参考にし、原稿用紙に詩を書いてみましょう。
原稿用紙は後ろの33〜36ページにあります。切り取って使いましょう。

三 書いた詩を読み合おう。

自分の思いが相手に伝わっているでしょうか。書いた詩を友達と交換して読み合い、感想を書いてもらいましょう。

表現のくふうとして「くり返し」が使ったことで、苦しくてもあきらめずに練習していこうという強い思いが伝わってきました。この詩を読んで、ぼくも、あきらめずにいろいろなことにチャレンジしていこうと思いました。

(より)

(より)

「表現のくふう」を使って、詩を書くことができましたか。使ったことができた表現に印をつけましょう。

連	体言止め	対句
☐	☐	☐
擬音語	擬態語	くり返し
☐	☐	☐
比ゆ	擬人法	倒置法
☐	☐	☐

(より)

四 ふり返りをしよう。

表現をくふうして、自分の思いが伝わるように詩を書くことができましたか。◎、○、△、×の四段階で評価し、下の□に書き込みましょう。

《◎…よくできた ○…できた △…もう少し ×…うまくいかなかった》

○目標 論の進め方を工夫して、防災についての提案書を作ることができる。

○関連 「いざというときのために」

いざというときのために

○論の進め方をくふうして書きましょう

私たちの身の回りでは、日々さまざまな自然災害が起こります。読み手に分かりやすく伝えるには、論の進め方や資料の活用方法のくふうが大切です。防災への取り組みについて考え、提案書をまとめましょう。

一 題材を決めて調べよう。

(1) 提案の例を参考に、調べて分かったことを書こう。

提案の例

- ・災害から身を守るために必要なこと
- ・最新の防災グッズはこれだ
- ・非常食など備蓄の大切さ
- ・避難所への誘導のために

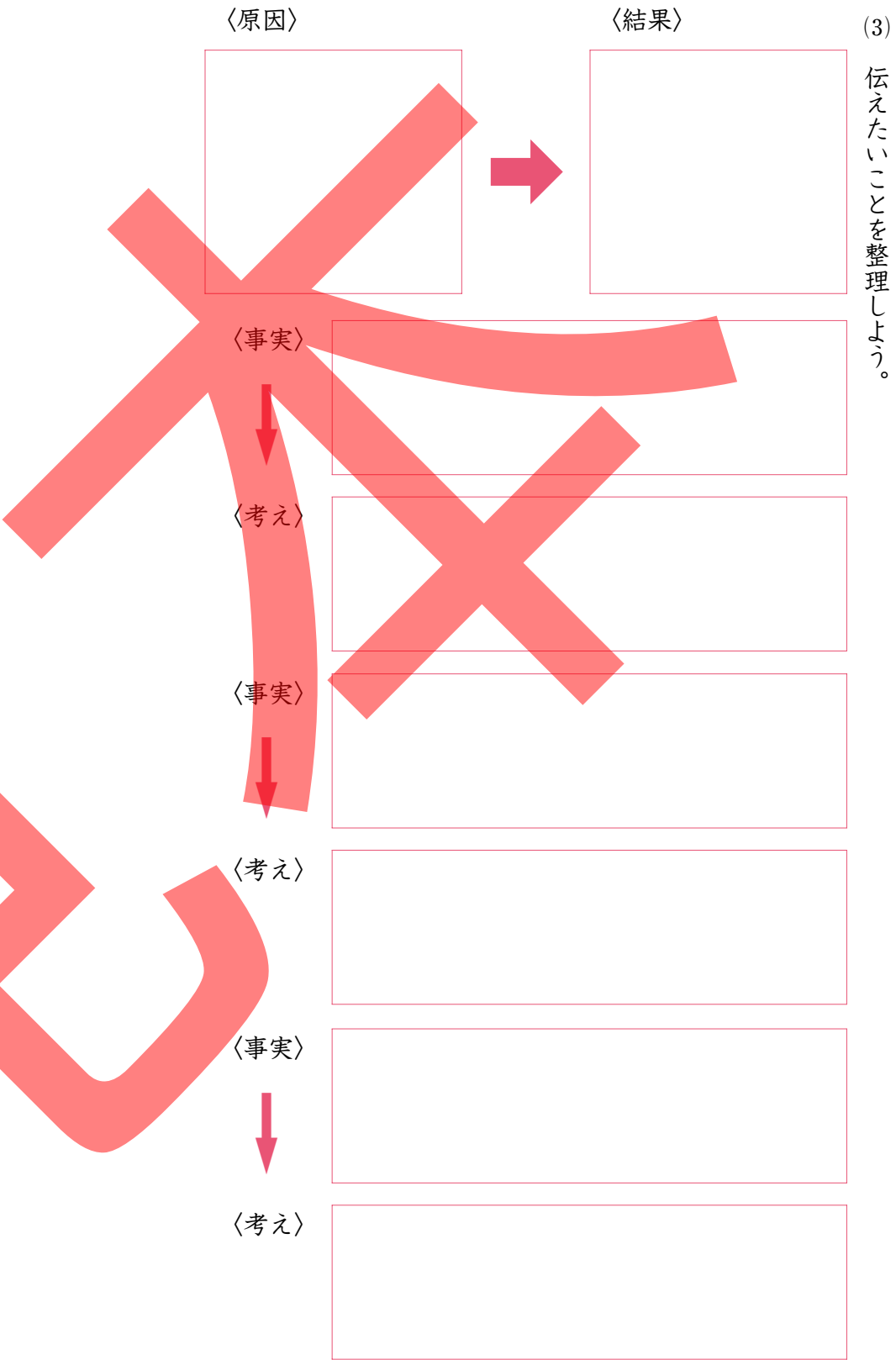
メモ

【本やインターネットで調べて分かったこと】

・教科書64ページを参考に、自由に書かせてもよい。

始め	〈導入〉
中	〈 〉
	〈 〉
	〈伝えたいこと〉
終わり	〈提案・まとめ〉

二 論の進め方をくふうしよう。
提案を分かりやすく伝えるための論の進め方、資料の活用の仕方を考えよう。



- (2) 提案することを決めよう。

三 提案書を完成させよう。

- (1) 読み手に分かりやすく伝わるように、自分の伝えたいことを書きましょう。
- (2) 文章が書けたら、適切な情報を追加してあるか、また説得力のある文章になっているか、文章を推敲こうしましょう。

(例) 地しんは、いつでもどこでも起こります。

(例) 地しんを身近なものだと考えていないために、危機意識が低く、熱心に対策しない人もいるのかもしれません。
しかし、地しんは、いつでも～対策を取るべきです。

- (3) 資料の配置や見せ方を考えて、提案書を完成させましょう。
用紙は後ろの37～38ページにあります。

四 完成した提案書を読み合おう。

完成した提案書を友達と読み合い、感想を書いてもらいましょう。

五 ふり返りをしよう。

論の進め方をどのようにくふうしながら提案書を作りましたか。

(
より)

(
より)

(
より)

六年生の本だな

○読書感想文を書きましょう



今までに、どんな本を読みましたか。楽しく読んだ本、なみだを流しながら読んだ本、思わず笑ってしまった本、自分をふり返って考えることができた本もあるでしょう。

そんな本を、自分の心の中にしまいこむのではなく、友達やうちの人も、多くの人にも、ぜひ教えてあげましょう。

いちばん書きたいことをはっきりさせよう

何を書いたらいいかわからない、という人もいます。その本を読んだときに、いちばん最初に感じた気持ちを大切にしましょう。

感動が伝わるように書こう

自分がどこに感動したのか、どうして感動したのかを相手（読み手）に伝えるように書くためにはどうしたらよいでしょう。中心人物や登場人物の生き方や考え方に対する思いや疑問を書いたり、「自分にも同じことがあったな。」という経験を書いたりすることが大切です。

次の作品を参考にして、みなさんも感想文にちょう戦してみましよう。

心の強さとは

安城・錦町小 小野 瑞 希

①「どんなに逆風が強くても、自分が『これだ』と信じる意見を言い続けなければならないんですよ。」

② これは、日本初の世界遺産となった屋久島の森を守った兵頭さんの言葉です。なぜ兵頭さんは、国の意見に逆らってまで屋久杉の森を守るのか、この本を読み始めた時には不思議でした。圧倒的に強い立場の国に対して、一人で屋久杉のばっ採を反対したからです。私は、自分の意見を人に伝えるのが苦手だから余計に兵頭さんの行動に興味をもちました。

③ しかし、本を読み進めていくうちに少し自分の考えが変わってきました。大多数の人たちが国の意見に従っている中で、自然を守るために十年もかけてばっ採を止め、屋久島を世界遺産へと導くことができたのは、とても勇気があることだと思いました。さらに、

始め ①②

○書き出しをくふうしてみよう。

作者は、本の内容の紹介や興味をもった点から書き出しています。

みなさんも読み手を引きつける効果的な書き出しを考えましょう。

- ・本を読むきっかけになったことから
- ・感動の中心から（感動の理由、自分のこれまでの考えと比べるなど）
- ・登場人物や筆者へのよびかけから
- ・自分の経験から
- ・本の内容の紹介（自分が気に入った文のぬき出し）から

中 ③⑥

○内容を具体的に書こう。

兵頭さんの行動について紹介し、自分の

一 感想文から学ぼう。

瑞希さんの感想文を読みながら、感想文を書くときのポイントを見つけましょう。

兵頭さんは屋久杉の森のばっ採を反対する時に、ただ反対するだけでなく、しっかりと自分の意見を伝えていました。

④ 私は、話し合いの場で人の意見に流されてしまうことがあり、自分の意見を伝えようか迷うときがあります。先日、卒業アルバムに使う写真をとる場所を五から六人の班で決めました。自分がとりたかった場所を主張することができず、友達の考えに流されて決定してしまいました。しっかりと意見を言いたいという気持ちはあっても、それを言うと反対されないか、自分勝手だと思われるか、などと考えてしまい、自分の意見を言えませんでした。決まった場所がいやなわけではないけれど、自分の意見をきちんと班の子に伝えることができなかったことを後かいています。もし兵頭さんが私の立場だったら、きっと自分の意見を言い、自分のとりたかった場所を主張して、その上でみんなと相談して決めていくのだろうと思います。

⑤ 兵頭さんが意見を主張できたのは、大人だからではなく、心の強さをもっているからだと思います。私にはまだない心の強さをもっている兵頭さんを私はとてもすごいなと思いました。この心の強さをもつには勇気と自信がいることがこの本を読んで分かりました。

⑥ この本の題名である「もうひとつの屋久島から」の「もうひとつ」とは、世界遺産としてきやっ光を浴びている屋久島ではなく、たった数人で始まったばっ採の反対運動によって、きせき的に守られた屋久

姿をふり返って考えたことをまとめています。 (3) (4) 段落

「なぜ兵頭さんは、国の意見に逆らってまで屋久杉の森を守るのか」という自分の疑問に対する答えを本文や題名から考え、「心の強さ」というキーワードを使ってまとめています。 (5) (6) 段落

次のようなことに気をつけて書いてみましょう。

・あらすじをまとめて書くのではなく、自分の考えにつながるエピソードを選んで書く。

・登場人物の行動や言葉を引用し、自分の考えとかかわらせながら書く。

・事実（本に書かれていること）と自分の感想・意見を区別して書く。

終わり ⑦

○ 本から学んだことをくふうしてまとめよう。

作者は、兵頭さんの姿から学んだことを、今後の自分の生活に生かす決意や、兵頭さんへの思いを最後に書いてしめくくっています。

本から学んだことに対する自分の考えや思いをしっかり主張し、読み手の心に残るような終わり方のくふうを考えましょう。

（安城の子どもの読書感想文集『貝がら』第53号）

武田剛 『もうひとつの屋久島から』世界遺産の森が伝えたいこと』フレーベル館

感想文を書くために

① もう一度作品をていねいに読み返しながら、感じたことや自分の考え、気に入った部分などをメモしておく。

② 何を書くかを考え、中心を決める。

- ・ 作品のテーマへの思い
- ・ 生き方、考え方に対する思い
- ・ 疑問点、問題点
- ・ 自分の生活や社会とのかかわり
- ・ 同じような経験
- ・ 引用した部分について、自分が受け止めたことや感じたこと

③ どういう順序で書き進めるか、構想を立てる。

二 感想文を書く準備をしよう。

心に残った本を選び、次のことについてメモを取りながら、もう一度本を読み返してみよう。

書名

(1) この本を選んだわけ、この本を読もうと思ったきっかけ

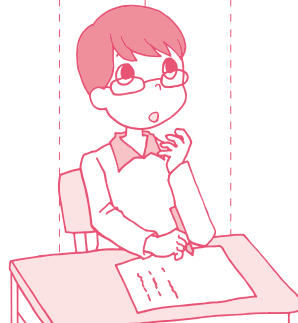
作者名

(2) あらすじや本のだいたいの内容



(3) 心に残った場面や言葉、初めて知ったこと

(4) 本を読んで、ものの見方や考え方が変わったこと



(5) 本から学んだことに対する自分の決意や思い

三 感想文を書こう。
どんな順序で書き進めるか、組み立てを考えてから、感想文を書きましょう。

○ 題名

「△△を読んで」という題名のほかにも、次のようにくふうしてみましょう。

- ・自分がいちばん考えさせられたことを短い言葉で
- ・本文中の心に残った言葉を選んで

○ 始め

書き出しのくふう（16ページ）を参考にして書きましょう。

○ 中

読み取りメモ（19～21ページ）を見て、伝えたい内容を整理しましょう。自分が経験したこと、見たこと、聞いたことや自分と登場人物を比べて考えたことも書いてみましょう。

○ 終わり

上の読み取りメモを見て、心に残る終わり方になるようにくふうしてみましょう。自分の決意や思い、夢などを書いてみましょう。



○目標 生活の中から題材を選び、言葉の選択や順序を工夫して、発見や感動を俳句で表すことができる。
○関連 「心の動きを俳句で表そう」

心の動きを 俳句で表そう

○表現をくふうして俳句を作しましょう

俳句は日本で古くから作られてきた五・七・五の十七音からなる短い詩です。季節感を表す「季語」を入れて作ります。
今までに、どんな俳句を読んだことがありますか。また、俳句を作ったことはありますか。季節を感じた出来事などを十七音のリズムで伝えてみましょう。
一 それぞれの俳句を読んで、思いうかんだ情景や、おもしろいと思ったところを友達と伝え合おう。

《児童の作品》

風ふいて 道路いちめん 桜色
〈季語…桜 季節…春〉 柴田 一希

電線に 音符を描く つばめたち
〈季語…つばめ 季節…夏〉 後藤なつ美

赤とんぼ 野球のノック 見に来てる
〈季語…赤とんぼ 季節…秋〉 川上 翼

初もうで 人におされて 願い事
〈季語…初もうで 季節…冬〉 吉中 菜穂

二 材料を集めよう。

生活の中で気づいたこと、季節を感じた出来事から、俳句の材料を集めましょう。現在の季節から連想して、思い浮かぶ言葉や出来事を書き出してもよいでしょう。

季節を感じたときを思い出してみよう。

三 俳句を作ろう。

俳句には、季語と呼ばれる季節を表す言葉が入ります。季語を一つ入れて作ってみましょう。

そのときの発見や感動が読む人に伝わるように、表現をくふうしましょう。「きれいだな」「うれしいな」「楽しいな」といった気持ちを表す言葉を使わずに、自分が心ひかれたものを何かにたとえてみたり、ふさわしい言葉を探したりして表現してみよう。

五	七	五

※リズムがあれば、字数にこだわらなくてもよい。

(1) 季節の言葉を集めよう。

 〈春〉 しおひがり おぼろ月 茶つみ 種まき つくし など	 〈夏〉 ほたる ゆかた せみの声 夏休み すいか など
 〈秋〉 木の実 秋風 くり すずき いもほり など	 〈冬〉 ストーブ お正月 雪 たき火 ひなたぼっこ など

四 俳句を仕上げよう。

同じ言葉でも、順序を入れかえたり、表現を少しかえたりすると、感じがちがってきます。

いつの間にみんな集まる日なたぼこ



日なたぼこみんな集まるいつの間に
日なたぼこいつの間にやらみな集う



くふうしてみよう

- ・言葉の順序を入れかえる
- ・様子をほかのものに例える
- ・情景を伝えるのにふさわしい言葉を探す
- ・直接気持ちを伝える表現をさける など

(1) 自分の作った俳句の言葉の順序を入れかえたり、表現を少しかえたりしてみよう。

五	七	五	五	七	五	五	七	五

(2) いちばん気に入ったものに○をつけよう。

・友達の作った俳句の良さ（思い浮かべた情景や、おもしろいと思ったところ）に気づかせる。

五 クラス句会を開こう。

作った俳句を持ち寄って、クラス句会を開きましょう。

クラス句会の進め方

- 1 作った俳句を一人一句ずつ紙に書いて提出する。
作者名は書かない。
- 2 集めた紙に番号をつけてはり出す。
- 3 はり出された句の中から、よいと思う句を一人三句ずつ選ぶ。
- 4 投票用紙に、選んだ句の番号を書いて提出する。
- 5 投票用紙を集計して、結果を発表する。
- 6 自分の選んだ句や、自分の句と感じ方や表現が似ている句などについて、感想や意見を話し合う。

- (1) よいと思った俳句を三句選び、下の投票用紙に番号を書きましょう。また、その俳句の感想を書きましょう。

- (2) 自分の句と感じ方や表現が似ている句を書きましょう。

- (3) (2)で選んだ句について、どのような点が似ているのか書きましょう。

- (4) ふり返りをしましょう。

表現をくふうして俳句を作り、感想を伝え合うことができますか。◎、○、△、×の四段階で評価し、左の

□に書き込みましょう。

《◎…よくできた ○…できた △…もう少し ×…うまくいかなかった》

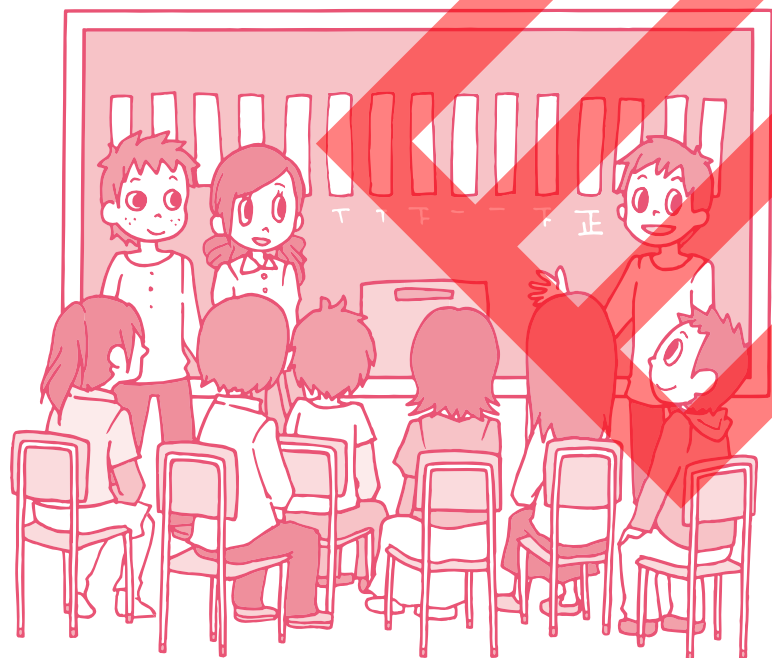
投票用紙 名前()

俳句を選ぶときのポイント

- 一 季語（季節を表す言葉）が入っているか。
- 二 五・七・五などの、リズムがいいか。
- 三 表現のしかたがすぐれているか。
（たとえば、言葉の順序の入れかえ、音、情景など）

P33の「表現のくふう」参照

番号	感想（選んだ理由や気に入ったところを書こう）



○目標 目的に応じて情報を集め、パンフレットで情報を発信することができる。

○関連 「発信しよう、私たちのSDGs」

発信しよう、 私たちのSDGs

○相手や目的に応じて情報を発信しましょう

SDGs（持続可能な開発目標）は、世界中の人々が豊かに暮らせるようになるために、二〇一五年に国連で採択された十七の目標です。未来のために、今、私たちが考えるべきことは何かを発信しましょう。

相手（読み手）や目的を明確にし、SDGsについて発信するパンフレットを作りましょう。

一 テーマを決めて情報を集めよう。

どのようなテーマについて、だれに発信するのか、グループで話し合いましょう。

テーマ
教科書171ページの二次元コード「SDGsとは」を利用して書かせてもよい。

対応しているSDGsの番号（1～17）

発信する相手
下級生 地域の方 など

二 パンフレットの構成を考えよう。

テーマについてさらに情報を集め、どのような記事を書くのか、どのようなパンフレットの構成にするのかなどを決めるために、グループで編集会議を開きましょう。

メモ

グループのパンフレットの構成

(4)	(3)	(2)	(1)
() さん	() さん	() さん	() さん

三 情報を集めよう。

構成が決まったら、自分が担当することについて、さらに情報を調べましょう。

情報を集めるときには、情報の信頼性と著作権に気を付けましょう。

情報①	日本における二〇一九年度のエネルギーの割合。
出典	資源エネルギー庁の資料より
情報②	
出典	

情報③	
出典	
情報④	
出典	
情報⑤	
出典	

四 情報を効果的に活用しよう。

キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報をどのように結び付けて示すと効果的か考えましょう。

(1) 教科書173ページを参考にして、キャッチコピーを考えたり、使う表やグラフを選んだりしましょう。

キャッチコピー

○読み手をひきつける短い表現のことで、ポスター全体の題名の役割も果たします。

・目立つところに配置しましょう。

表やグラフ

・どの資料から提示すると効果的であるかを考えて、資料の順番を決めましょう。

・読み手がどのように記事を読み進めていくかを考えて、配置しましょう。

(2) キャッチコピーを考えましょう。

(3) 29ページで集めた情報の中から、テーマについて効果的に呼びかけるために必要な資料を選び、しぼりこみましょう。

選んだ情報 29ページで選んだ情報の番号を書く
メモ

五 パンフレットを書こう。

キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報を使って文章を書きましょう。
用紙は後ろの39〜40ページにあります。

六 完成したパンフレットを、読み合おう。

完成したパンフレットを友達と読み合ったり、ほかのグループと交換して感想を書いてもらいましょう。

(より)

(より)

(より)

七 ふり返りをしよう。

さまざまな情報を発信するとき、どのようなことに気をつけましたか。書いてみましょう。

・まとめなどに活用するとよい。

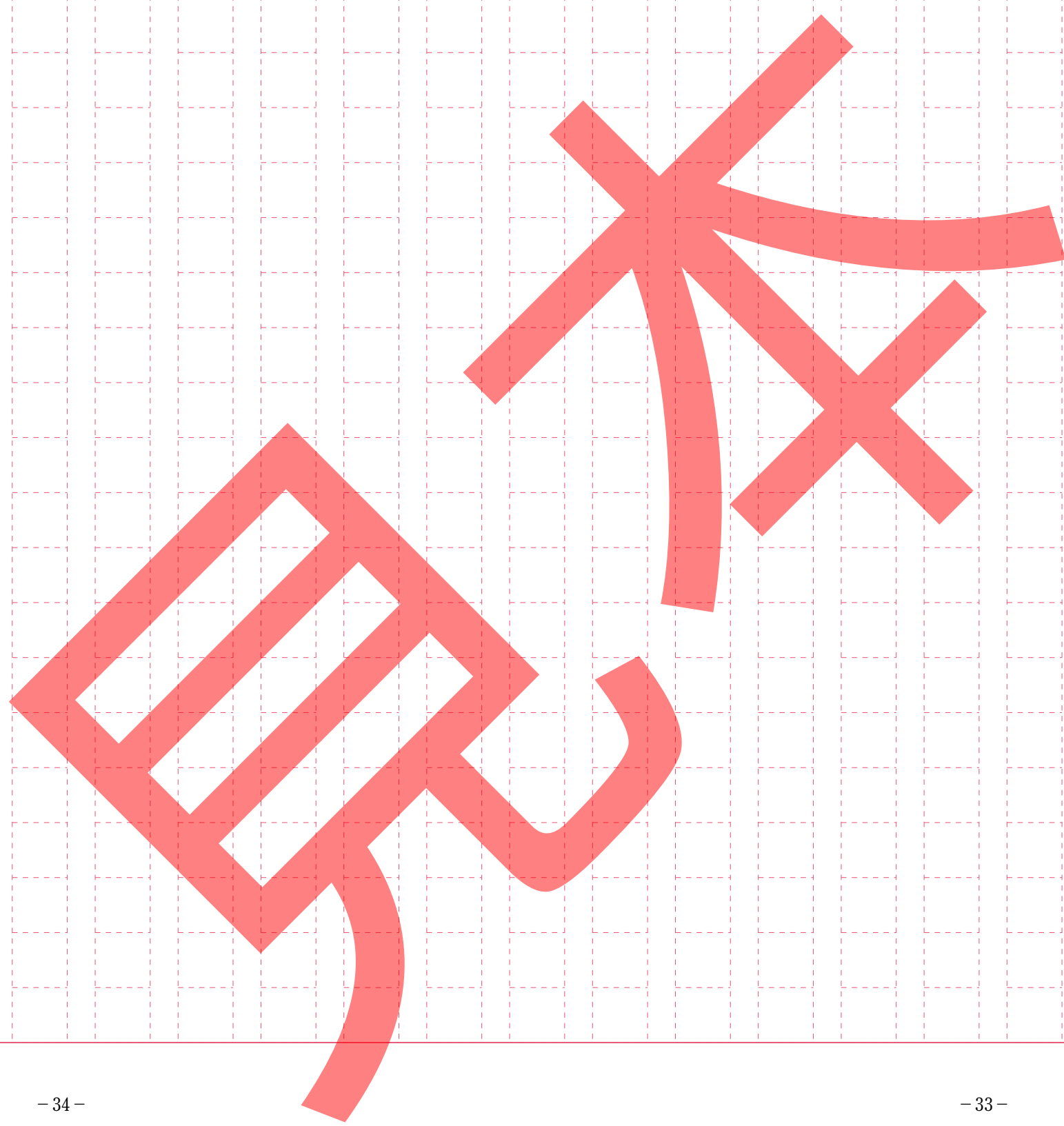
←題 三マス空けて

←書き出しは一マス空ける



名前

←一マス空ける



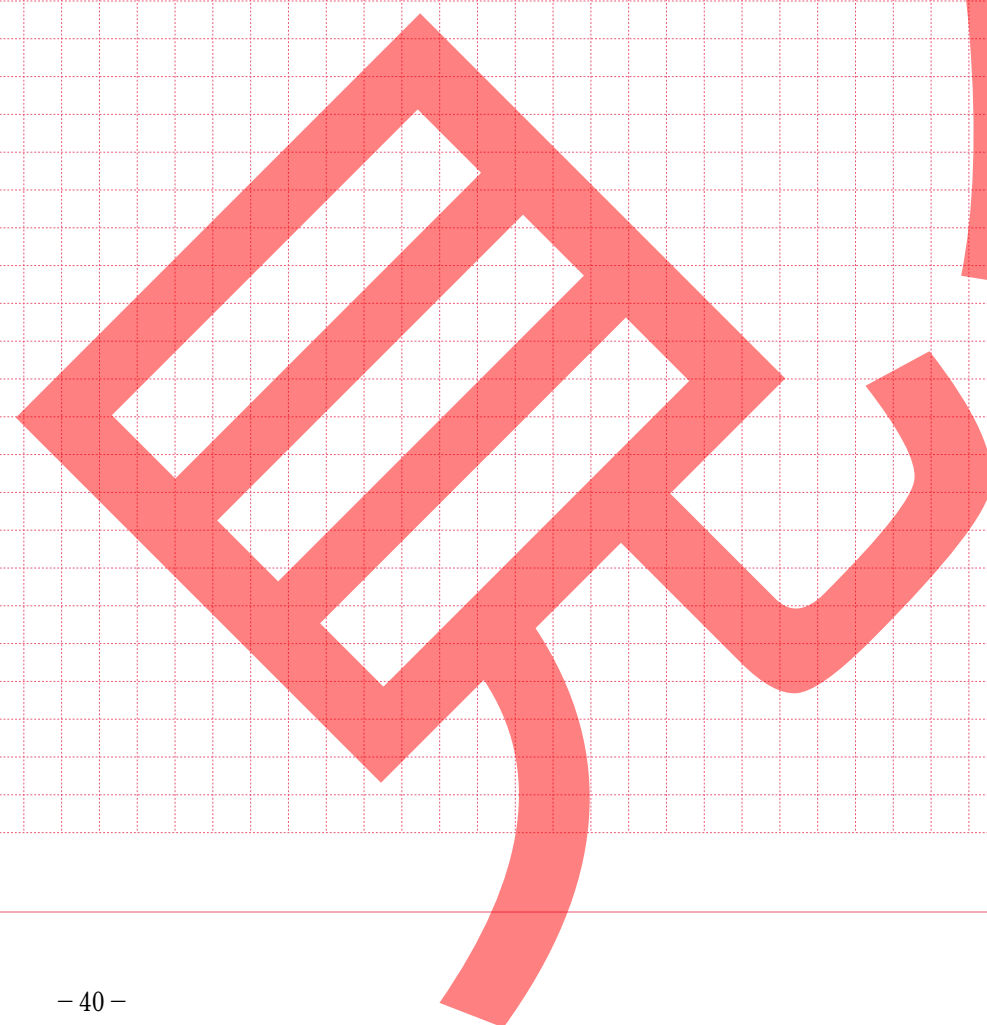
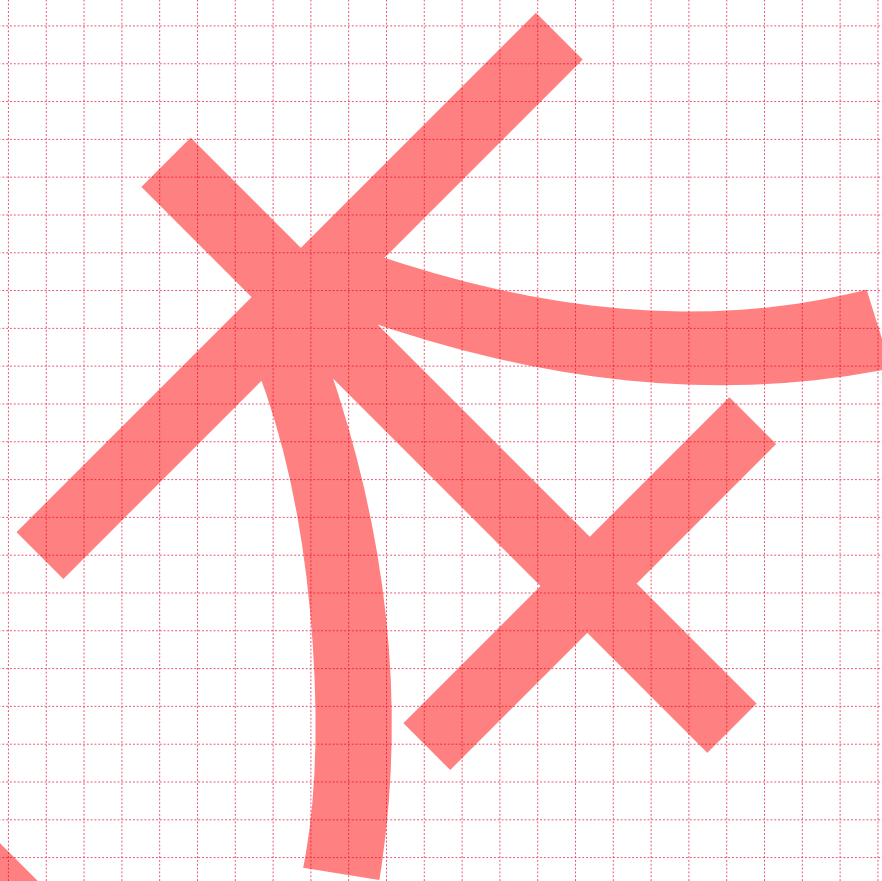
← 題 三マス空けて

← 書き出しは二マス空ける



名前

← 二マス空ける



表現をくふうして書こう(詩)

《教科書との関連》
「詩を読もう」

—いろいろな表現のくふうを知り、表現の効果を考えて書きましよう—

一 学習目標

1 詩の書き方を学び、自分の思いや感動を読む人に分かりやすく表現することができる。

二 指導事項

- 1 日常生活を振り返り、自分の感動したことを題材としてまとめさせる。
2 読み手に分かりやすいように、例文などを参考にさせながら、構成や表現方法を工夫させる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 参考作品を読み、効果的な表現の工夫について学ぶ。	①① P3～6の作品を読みながら、表現の工夫の種類について学習する。 (設問一) (2) P3～6の作品を読み、自分が気に入った作品を選び、理由を書く。また、工夫されている表現について見つける。 (設問一)	①○P3～6の作品のどこに表現の工夫がされているか確かめさせる。 ○気に入った言葉や表現を見つけることで、作品の良さに気づかせ、詩を書くときの参考にさせる。
② 題材を決める。	② ①自分の心に残った出来事や身近な人のことなどを書き出し、題材を決める。そして、自分が伝えたいこと(感動)を書き出し、いちばん伝えたいことを決める。 (設問二)	②○感動したり、発見したりした出来事を書かせ、題材を集めさせる。その中から題材を決めさせる。 ○決めた題材をもとに連想メモを書かせることで、いちばん感動したことを具体的にさせる。

③ 詩を書く。	③ P3～6の「表現のくふう」や作品を参考にして、原稿用紙に書く。 (設問二)	③○自分が感動したきっかけや、どんなふうに心を動かされたかを朱書きの例を示すなどして、書かせる。 ○いちばん書きたいことの他に、その時の様子を詳しく具体的に書かせる。 ○動作、様子などは、諸感覚を働かせた表現や会話文なども使わせる。 ○「うれしさ」や「かなしさ」など感情を表す時は直接的な表現でなく、自分の感じた感覚を素直に書かせる。 ○読み手に分かりやすく伝わるように、内容のまとまりごとに連を構成させる。
④ 推敲する。	④ 書いた詩を声に出して読み、推敲する。その際、P3～6の「表現のくふう」を参考にする。	④○何度も声に出して読ませ、言葉の調子やリズムについて考えさせる。
⑤ 感想を伝え合う。	⑤① 友達の詩を読んだ感想を書く。 (設問三) (2) 感想を伝え合う。 (3) 友達の書いた感想から、自分の詩の良いところを見つける。	⑤○お互いの作品を読み合い、友達の表現の工夫を見つけ、相互評価させる。
⑥ 振り返る。	⑥ 自分の思いが伝わる詩を書くことができたか振り返る。 (設問四)	⑥○使った「表現のくふう」を確かめさせる。 ○学習のまとめとして、「表現のくふう」を生かして、自分のいちばん伝えたい思いが伝わるように詩を書くことができたか、振り返らせる。

いざというときのために

—論の進め方をくふうして書きましよう—

一 学習目標

1 論の進め方を工夫して、防災についての提案書を作ることができる。

二 指導事項

- 1 原因と結果、事実と結果など、情報と情報の関係を的確に示させる。
2 「始め・中・終わり」など、読み手に伝えたいことの中心を考え、情報を整理させる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 題材を決めて調べ、伝えたいことを整理する。	① 防災について題材を決める。 ② 呼びかけたいテーマに合った資料を集める。 ③ 伝えたいことを整理する。	① 書き出した情報を比較したり分類したりしながら、提案書に載せる情報を検討させる。 ○ 事実と考え、原因と結果など、情報と情報の関係の示し方に注意を促す。（教科書P 65 二次元コード参照）
② 論の進め方を考える。	② 「始め・中・終わり」など、文章全体の構成を工夫する。	② 提案書の内容を分かりやすく示すために、図表などの資料を載せるかも検討させる。

③ 提案書を書く。	③ ① 割り付けをもとに、自分の伝えたいことを文章にまとめる。 ② 文章を推敲する。 ③ 論の進め方を工夫して、提案書を完成させる。	③ ① 説得力のある文章になるように、適切な情報を載せるようにさせる。 ○ 推敲の観点（教科書P 66 二次元コード）を参考に推敲させる。
④ 完成した提案書を読み合い、振り返りをする。	④ ① 完成した提案書を読み合い、感想を書く。 ② 呼びかけたいテーマが伝わるには、どのような工夫をするとういか考えを交（設問四）流する。 ③ 提案書作りを振り返り、論の進め方で効果的に呼びかけるために工夫した点（設問五）を具体的に書く。	④ ① 具体的に良さを見つけて書かせる。 ・ 提案の内容が伝わる文章になっているか。 ・ 提案を受け入れようと思う内容になっているか。 ・ 提案をするうえでの論の進め方は適切か。 ・ 資料は効果的に活用されているか。 ・ そのほか、特にこだわったポイントは何か。 ○ 友達の感想を参考にすることで、客観的に自分の工夫の効果を振り返らせる。

六年生の本だな

―読書感想文を書きましよう―

《教科書との関連》
「六年生の本だな」

一 学習目標

- 1 本を読んで感じたこと、考えたことを、読み手に伝わるように、構成や表現を工夫して書くことができる。

二 指導事項

- 1 いちばん心に残った場面のある本を選ばせる。
- 2 本を読んで、感じたことや考えたことをはっきりさせて書かせる。
- 3 本を読んだことを通して、何を考え、これからどうしていきたいかが読み手に伝わるように工夫して書かせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 題材を集める。	① いくつかの本を読み、いちばん心に残った作品、読みながらいろいろな思いや考えがうかんできた作品を見つけ、その中から一つに絞る。	① ①いくつかの本を読むことで、題材を見つける手がかりとさせる。 ○思いや考えについて簡単にメモをとりながら読ませ、後で振り返るときの手がかりとさせる。 ○言いたいことがはっきりしているものを選ばせる。
② 作品「心の強さとは」を読んで学習する。	② ① 参考作品「心の強さとは」を読み、作品の良いところについて、説明部分を参考にしながら発表する。 ② ② ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂	

心の動きを俳句で表そう

―表現をくふうして俳句を作りましょう―

《教科書との関連》

「心の動きを俳句で表そう」

一 学習目標

- 1 生活の中から題材を選び、言葉の選択や順序を工夫して、発見や感動を俳句で表すことができる。

二 指導事項

- 1 参考作品を読んで、俳句のきまりを確かめたり、作品のすぐれているところを話し合ったりさせる。
- 2 身の回りの生活の中から諸感覚を働かせて俳句の材料を集めさせ、言葉や表現を吟味して、俳句を作らせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① 俳句を読んで材料を集める。	①① 学習のねらいや流れを確かめ、作品例を読んで、俳句のきまりを確かめたり、作品を読んで思いうかべた情景などを話し合ったりする。 （設問一） ② 身の回りの生活の中から諸感覚を働かせて俳句の材料を集める。 （設問二）	① 優れた表現、気に入った表現に線を引かせる。 ○生活の中で季節の移り変わりを強く感じたことや、自然の移り変わる様子を見て感じたこと、毎日の生活や年中行事で感じたことをもとに、たくさん言葉を集めさせる。
② 集めた材料をもとにして俳句を作る。	②① 季語を考えて、表に書く。 ②② 言葉や表現を吟味して俳句を作る。 （設問三）	② ②に挙げた季節の季語を考えさせる。 ○「きれい」「うれしい」「楽しい」などの気持ちを表す言葉を使わずに、発見や感動を表すにはどうしたらよいか言葉を吟味できるよう助言する。

③ 例をもとにして、自分が作った俳句の言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりしてみる。	③① 作品例を読み、同じ言葉でも順序を入れかえたり、表現を少し変えたりすると、感じがかわることに気づく。 ③② 自分が作った俳句の言葉の順序を入れかえたり、表現を少し変えたりして、いちばん気に入ったものに印をつける。 （設問四）	③ ③作品例を声に出して読ませ、自分がいちばん好きなものとその理由を話し合わせる。 ○自分の作った俳句についても、言葉の順序を入れかえたり、表現を少し変えたりすると、感じがかわることを体感させ、じっくり吟味させる。
④ クラス句会を開き、感想を伝え合う。	④① クラス句会の進め方を読み、句会について知る。 ④② クラス句会を開き、互いの作品の良さを味わう。 ④③ すぐれていると思った俳句を三句選び、感想を書く。 ④④ 自分の句と友達の句を比べ、感じ方や表現が似ている句を探し、どのような点が似ているかまとめる。 ④⑤ 自己評価する。	④ ④「俳句を選ぶときのポイント」を参考にしながら、自分の気に入った俳句を選ばせる。 ○自分の選んだ句や、自分の句と感じ方や表現が似ている句などについて、思いうかべた情景や、おもしろいと思ったところを話し合わせる。 ○発見や感動が読む人に伝わるように工夫できたかという視点で振り返らせる。

発信しよう、私たちのSDGs

——相手や目的に応じて情報を発信しましょう——

《教科書との関連》
「発信しよう、私たちのSDGs」

一 学習目標

1 目的に応じて情報を集め、パンフレットで情報を発信することができる。

二 指導事項

- 1 相手や目的を明確にして、伝える情報をしぼりこませる。
2 図表を用いるなど、さまざまな方法で情報を集め、出典や信頼性を確かめさせる。

三 展開例

学習の流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
① テーマを決めて情報を集める。	① 学習のねらいや流れを確かめ、テーマを決めて情報を集める。 (設問一)	①○テーマを決めて、SDGsの十七の目標のどれと対応しているのかを確認させる。 ○それぞれの目標は、単独で立てられているのではなく、互いに関連し合っていることにも気づかせる。
② パンフレットの構成を考える。	② 集めた情報をメモに書き、パンフレットの構成をグループで考える。 (設問二)	②○どうすれば、読み手に分かりやすく情報を発信することができるのか、グループで考えさせる。

③ 情報を集める。	③ 自分が担当することについて、さらに情報をまとめる。 (設問三)	③○教科書を参考に、情報の信頼性と著作権について確認させる。 ○調べたことと、そこから考えたことなどを書き出す際は、必要に応じて、思考ツールを使うなどして情報を整理させる。(教科書P172二次元コード参照)
④ 情報を効果的に活用し、パンフレットを書く。	④(1) キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報を読み、効果的な活用について考える。 (2) 必要な資料を選び、しぼりこむ。 (3) 一人一人の記事を書き、一冊にまとめる。 (4) パンフレットを推敲する。 (設問四)	④○表やグラフを示したり、図解で表現したりし、読み手により分かりやすく伝えるようにさせる。 ○観点 ・誤字や表現上の誤りがないか。 ・パンフレット全体のテーマに沿っているか。 ・表現の工夫など、グループで決めたことが反映されているか。 ・特にこだわったポイントは何か。
⑤ 完成したパンフレットを読み合い、振り返りをする。	⑤(1) 完成したパンフレットを読み合い、感想を書く。 (2) パンフレット作りを振り返り、相手や目的に応じて情報を発信するために工夫した点を具体的に書く。 (設問六)	⑤○具体的に良さを見つけて書かせる。 ・相手や目的を意識できたか。 ・読む人に伝わるように、図表を用いるなど、伝える方法を工夫できたか。 ・一つだけでなく、複数の情報源に当たっているか。 ○友達の感想を参考にすることで、客観的に自分の工夫の効果を振り返らせる。